第２章　高齢者を取り巻く状況

１．市の人口動態

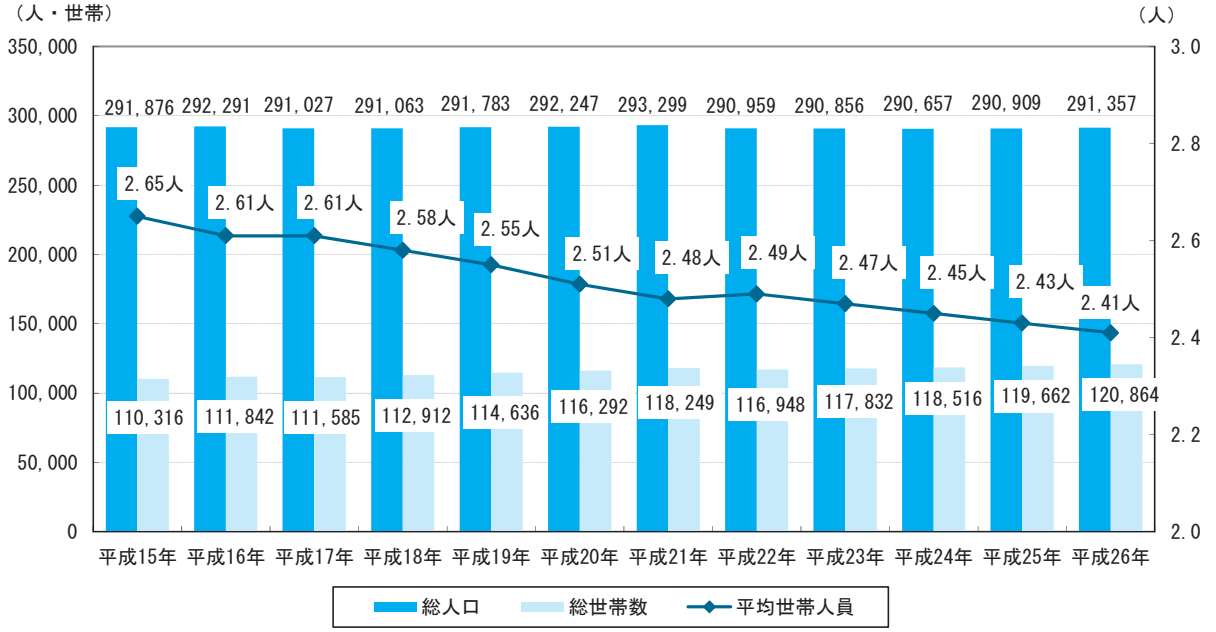
（１）総人口・総世帯数の推移

市の総人口は、平成 26 年(2014 年)10 月 1 日現在で 291,357 人、総世帯数は 120,864 世帯です。

総人口については、平成 15 年(2003 年)以降増減を繰り返し、直近では平成 24 年(2012 年)以降、増加に転じています。

総世帯数については、核家族化やひとり暮らし世帯の増加などを反映して増加傾向が続き、１世帯あたりの人数（平均世帯人員）が減少する傾向にあります。

総人口・総世帯数の推移



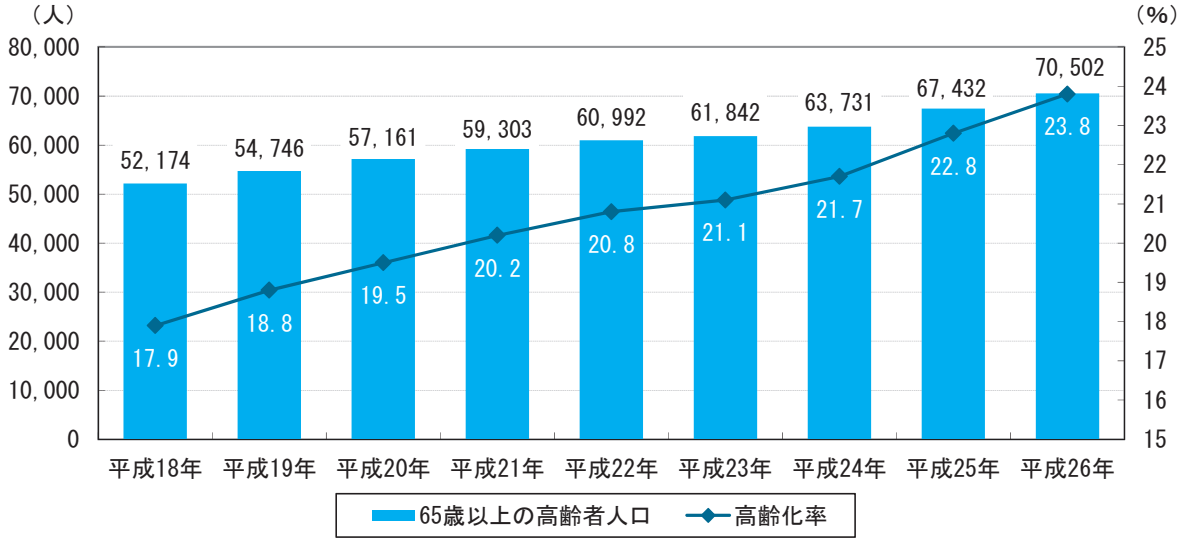
※各年 10 月 1 日現在（国勢調査人口による推計）。

（２）高齢者人口・高齢化率の推移

平成 26 年(2014 年) 4 月 1 日現在、65 歳以上の高齢者は 70,502 人、住民基本台帳人口に占める割合（高齢化率）は 23.8%と毎年増加を続けています。

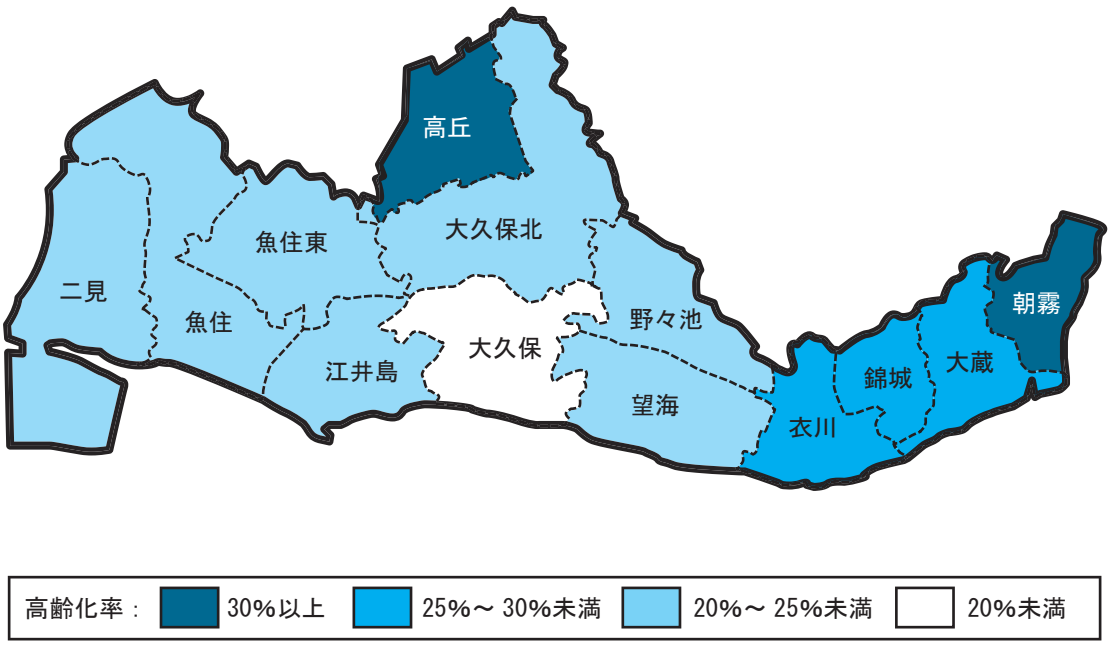
また、中学校区別の高齢化の状況をみると、朝霧・大蔵・錦城・衣川・高丘で高齢化率が 25.0%を超えています。

高齢者人口・高齢化率の推移



※各年４月１日現在（住民基本台帳人口）。

中学校区別高齢化率



※平成 26 年(2014 年) 4 月 1 日現在（住民基本台帳人口）。

（３）高齢者人口・高齢化率の将来推計

住民基本台帳人口は平成 26 年(2014 年)10 月 1 日現在 297,215 人、65 歳以上の高齢者は 71,823 人、高齢化率は 24.2%となっています。

人口推計については、住民基本台帳人口を基礎データとして、コーホート変化率法※により推計を行った結果、平成 37 年(2025 年)度には高齢者は 78,098 人、高齢化率は 27.2%になると予測されます。また、前期高齢者（65 歳以上 75 歳未満の人）と後期高齢者（75 歳以上の人）を比較すると、平成 26 年(2014 年)度では前期高齢者が多くなっていますが、平成 32 年(2020 年)度には後期高齢者が前期高齢者を上回り、平成 37 年(2025 年)度には、その差がより大きくなることが予測されます。

※コーホート変化率法：性・年齢別変化率、母親の年齢層と乳児の人口比などを用いて将来の人口予測を計算する方法。

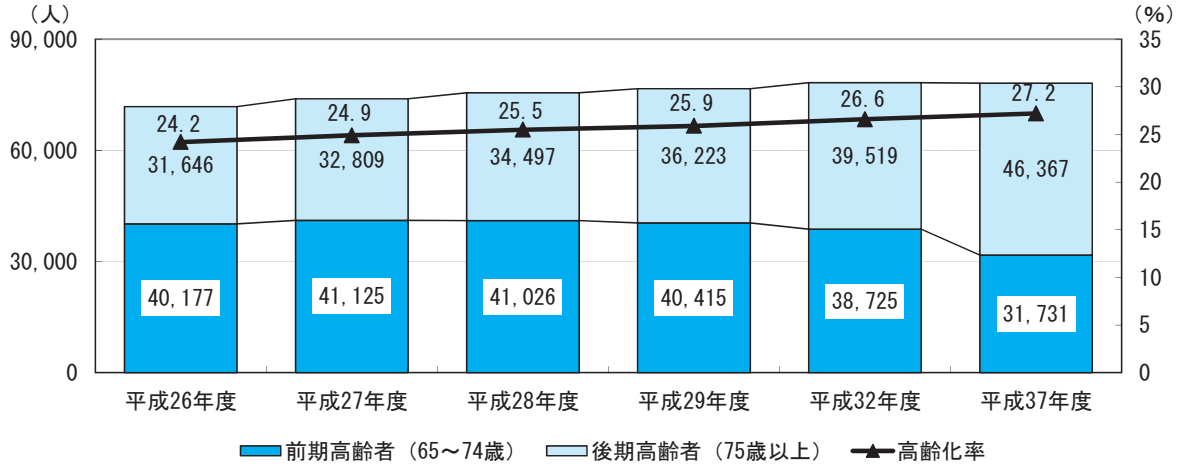
住民基本台帳人口・高齢者人口・高齢化率の将来推計

（単位：人）

	実績値	推計値				
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 32 年度	平成 37 年度
住民基本台帳人口	297,215	296,946	296,574	296,073	293,789	287,369
40 歳未満	125,101	123,181	121,521	120,097	115,967	109,697
40～64 歳	100,291	99,831	99,530	99,338	99,578	99,574
65～74 歳	40,177	41,125	41,026	40,415	38,725	31,731
75 歳以上	31,646	32,809	34,497	36,223	39,519	46,367
高齢化率	24.2%	24.9%	25.5%	25.9%	26.6%	27.2%

※各年度 10 月 1 日現在。

高齢者人口・高齢化率の将来推計



２．介護保険事業の被保険者・認定者等の状況

（１）第１号被保険者数の推移

介護保険事業の第１号被保険者数は年々増加しており、平成 26 年(2014 年)度では 71,856 人となっています。

高齢者の内訳をみると、前年度実績に比べて前期高齢者は 1,911 人、後期高齢者は 954 人の増加がみられ、住民基本台帳人口に占める前期高齢者の割合は 13.5%、後期高齢者の割合は 10.7%と、ともに上昇しています。

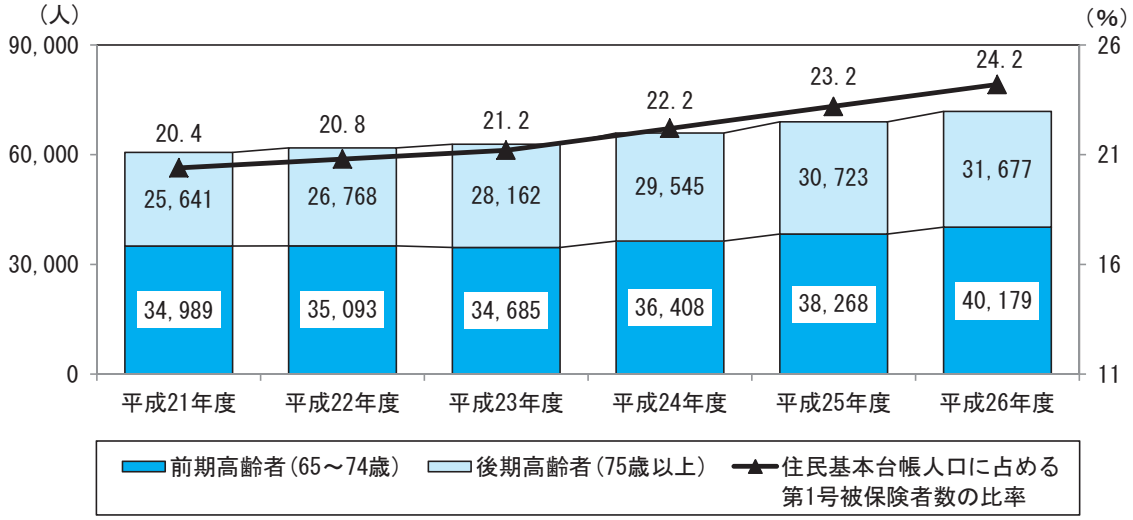
第１号被保険者数の推移

（単位：人）

	第４期事業計画			第５期事業計画		
	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
(A)第１号被保険者数	60,630	61,861	62,847	65,953	68,991	71,856
(a)前期高齢者(65～74 歳)	34,989	35,093	34,685	36,408	38,268	40,179
割合 (a)/(A)	57.7%	56.7%	55.2%	55.2%	55.5%	55.9%
(b)後期高齢者(75 歳以上)	25,641	26,768	28,162	29,545	30,723	31,677
割合 (b)/(A)	42.3%	43.3%	44.8%	44.8%	44.5%	44.1%
(B)住民基本台帳人口	297,377	296,821	296,718	296,519	296,771	297,215
住民基本台帳人口に占める第１号被保険者数の比率(A)/(B)	20.4%	20.8%	21.2%	22.2%	23.2%	24.2%
前期高齢者(65～74 歳)	11.8%	11.8%	11.7%	12.3%	12.9%	13.5%
後期高齢者(75 歳以上)	8.6%	9.0%	9.5%	10.0%	10.4%	10.7%

※各年度９月末現在。

第１号被保険者数の推移



（２）第１号被保険者数の将来推計

介護保険事業の第１号被保険者数の将来推計には、高齢者人口・高齢化率の将来推計で示した住民基本台帳人口の推計値を用いますので、同様の傾向となります。

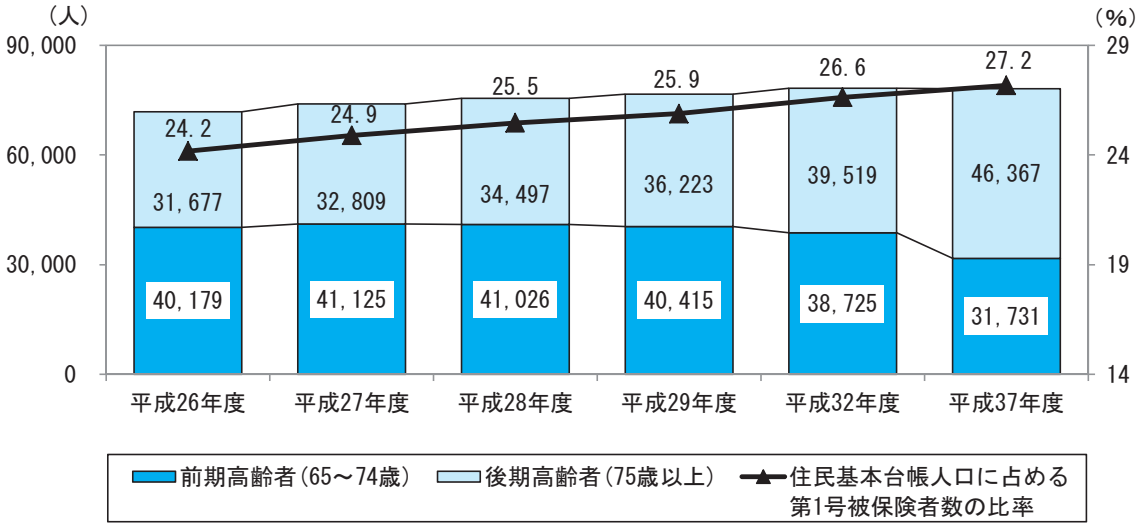
第１号被保険者数の将来推計

（単位：人）

	実績値	推計値				
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 32 年度	平成 37 年度
(A) 第 1 号被保険者数	71, 856	73, 934	75, 523	76, 638	78, 244	78, 098
(a) 前期高齢者 (65～74 歳)	40, 179	41, 125	41, 026	40, 415	38, 725	31, 731
割合 (a)/(A)	55. 9%	55. 6%	54. 3%	52. 7%	49. 5%	40. 6%
(b) 後期高齢者 (75 歳以上)	31, 677	32, 809	34, 497	36, 223	39, 519	46, 367
割合 (b)/(A)	44. 1%	44. 4%	45. 7%	47. 3%	50. 5%	59. 4%
(B) 住民基本台帳人口	297, 215	296, 946	296, 574	296, 073	293, 789	287, 369
住民基本台帳人口に占める第 1 号被保険者数の比率 (A)/(B)	24. 2%	24. 9%	25. 5%	25. 9%	26. 6%	27. 2%
前期高齢者 (65～74 歳)	13. 5%	13. 8%	13. 8%	13. 6%	13. 0%	10. 7%
後期高齢者 (75 歳以上)	10. 7%	11. 0%	11. 6%	12. 2%	13. 3%	15. 6%

※各年度９月末現在。

第１号被保険者数の将来推計



（３）要支援・要介護認定者数の推移

認定者数は、年々増加しており、平成 26 年(2014 年)度は 13,400 人となっています。後期高齢者数の増加とともに、後期高齢者の認定率は上昇しています。

また、市の認定率は、平成 23 年(2011 年)度から、全国に比べて高く、兵庫県に比べて低い傾向にあります。

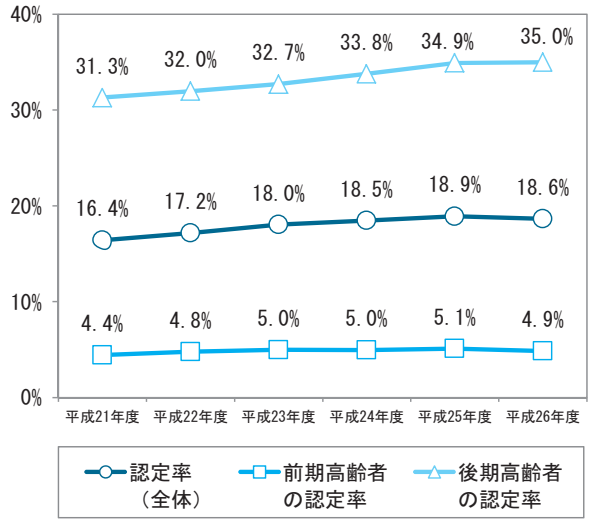
要支援・要介護認定者数の推移

（単位：人）

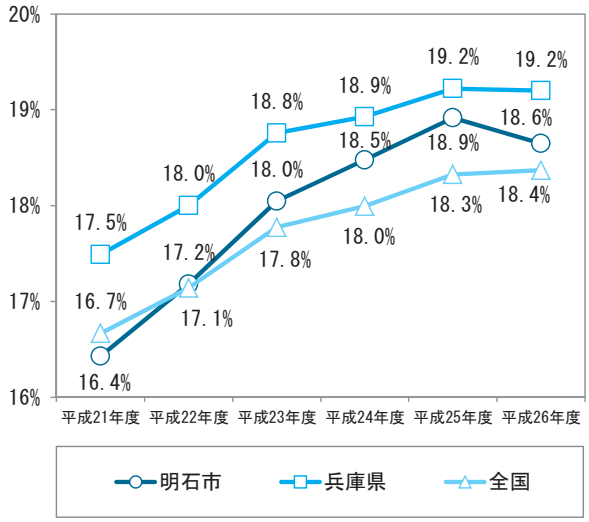
	第４期事業計画			第５期事業計画		
	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
(A)第１号被保険者数	60,630	61,861	62,847	65,953	68,991	71,856
前期高齢者(65～74 歳)	34,989	35,093	34,685	36,408	38,268	40,179
後期高齢者(75 歳以上)	25,641	26,768	28,162	29,545	30,723	31,677
(B)要支援･要介護認定者数	9,961	10,628	11,342	12,186	13,051	13,400
第２号被保険者	381	389	400	398	365	361
前期高齢者(65～74 歳)	1,552	1,680	1,731	1,806	1,958	1,953
後期高齢者(75 歳以上)	8,028	8,559	9,211	9,982	10,728	11,086
後期高齢者の占める割合	80.6%	80.5%	81.2%	81.9%	82.2%	82.7%
認定率(B)／(A)	16.4%	17.2%	18.0%	18.5%	18.9%	18.6%
前期高齢者の認定率	4.4%	4.8%	5.0%	5.0%	5.1%	4.9%
後期高齢者の認定率	31.3%	32.0%	32.7%	33.8%	34.9%	35.0%

※各年度９月末現在。
※要支援・要介護認定者数、認定率には第２号被保険者を含む。

全体、前期高齢者、後期高齢者別の認定率の推移



明石市、兵庫県、全国の認定率の推移



（４）要介護度別の要支援・要介護認定者数の状況

要介護度別の認定者数をみると、平成 26 年(2014 年)度は前年度実績に比べて要支援が 292 人、要介護が 57 人増加しています。なかでも要支援１は前年度実績に比べて 218 人の増加がみられます。

要介護度別の認定者数の割合をみると、平成 26 年(2014 年)度は、要支援が 38.8%、要介護が 61.2%を占め、年々要支援の割合が高くなっています。

明石市は兵庫県、全国に比べて認定者に占める要支援１・２、要介護１の割合が高くなっています。

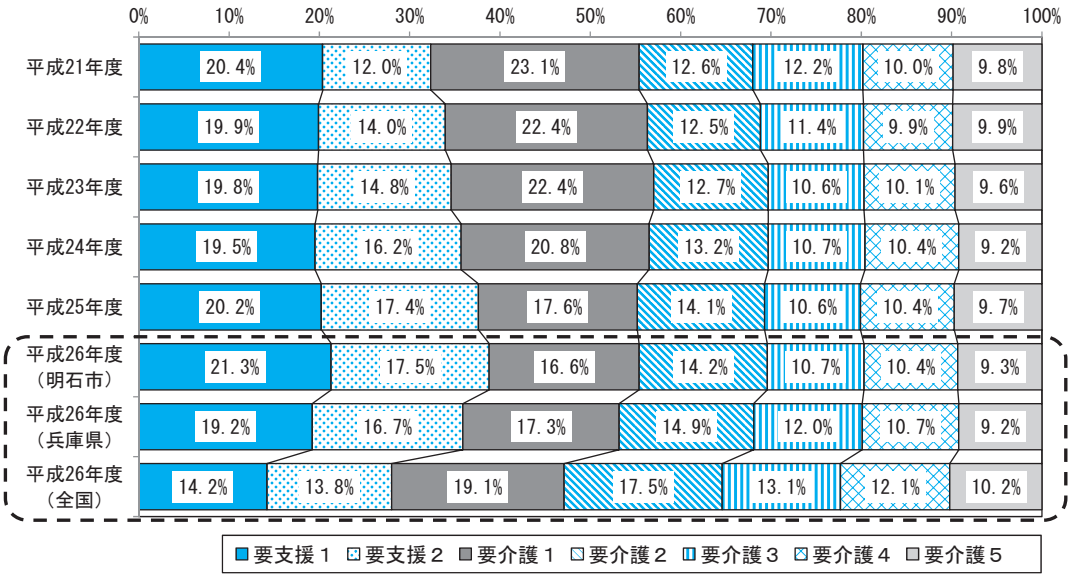
要介護度別の要支援・要介護認定者数

（単位：人）

	第４期事業計画			第５期事業計画		
	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
要支援	3, 219	3, 606	3, 925	4, 350	4, 910	5, 202
要支援１	2, 028	2, 114	2, 246	2, 379	2, 637	2, 855
要支援２	1, 191	1, 492	1, 679	1, 971	2, 273	2, 347
要介護	6, 742	7, 022	7, 417	7, 836	8, 141	8, 198
要介護１	2, 299	2, 380	2, 541	2, 533	2, 291	2, 232
要介護２	1, 254	1, 329	1, 442	1, 612	1, 846	1, 900
要介護３	1, 215	1, 215	1, 200	1, 299	1, 380	1, 435
要介護４	995	1, 049	1, 142	1, 271	1, 354	1, 391
要介護５	979	1, 049	1, 092	1, 121	1, 270	1, 240
合計	9, 961	10, 628	11, 342	12, 186	13, 051	13, 400

※各年度９月末現在。
※要支援・要介護認定者数には第２号被保険者を含む。

要介護度別の要支援・要介護認定者数の割合の推移と明石市、兵庫県、全国との比較



（５）要支援・要介護認定者数等の将来推計

認定者数は、高齢者数の増加に伴い、一貫して増加することが予測されます。

また、認定者数の増加とともに認知症高齢者（認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上）の認定者数は平成 29 年(2017 年)度には 7,499 人まで増加することが予測されます。

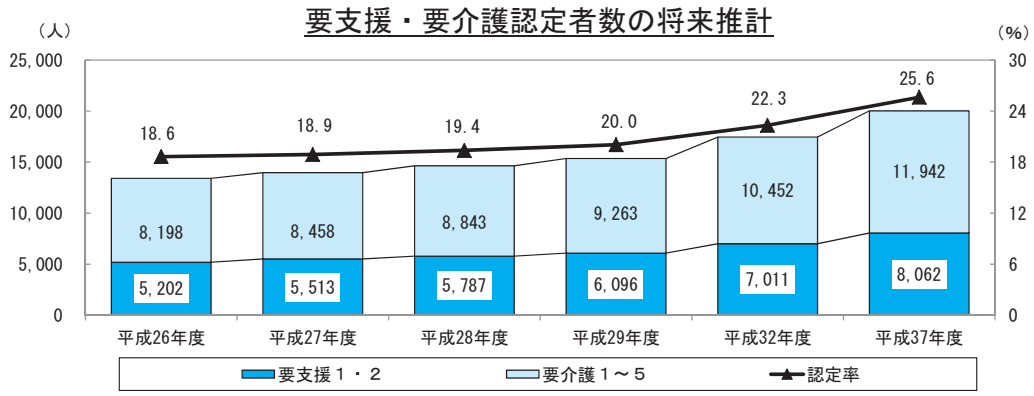
要支援・要介護認定者数の将来推計

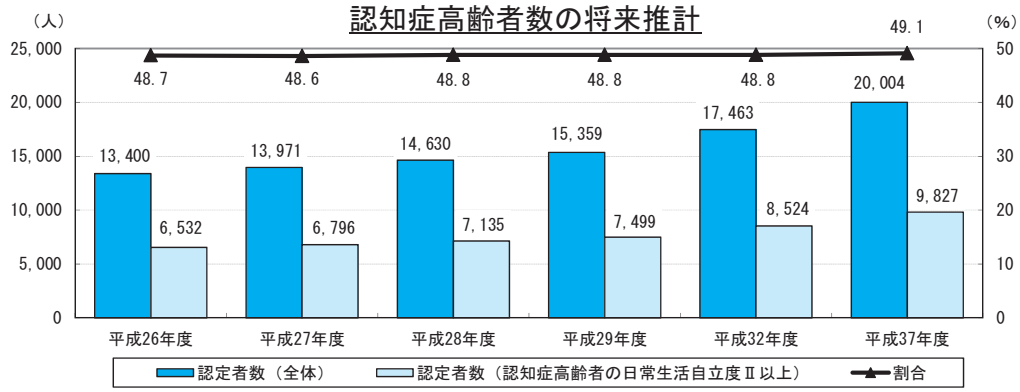
（単位：人）

	実績値	推計値				
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 32 年度	平成 37 年度
要支援	5,202	5,513	5,787	6,096	7,011	8,062
要支援１	2,855	3,029	3,179	3,340	3,807	4,321
要支援２	2,347	2,484	2,608	2,756	3,204	3,741
要介護	8,198	8,458	8,843	9,263	10,452	11,942
要介護１	2,232	2,205	2,287	2,387	2,654	3,001
要介護２	1,900	2,010	2,111	2,218	2,532	2,921
要介護３	1,435	1,500	1,577	1,663	1,904	2,180
要介護４	1,391	1,448	1,514	1,579	1,781	2,040
要介護５	1,240	1,295	1,354	1,416	1,581	1,800
合計	13,400	13,971	14,630	15,359	17,463	20,004

※各年度９月末現在。

※認定者数、認定率には第２号被保険者を含む。





※割合＝認定者数（認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上）÷認定者数（全体）。

３．高齢者に関わる施策の実施状況

（１）要援護高齢者支援事業

①　援護を必要とする高齢者

≪ひとり暮らし高齢者台帳の登録≫

ひとり暮らし高齢者の福祉の向上や安否確認、緊急時の対応など地域における高齢者の見守り体制づくりを目的として実施しており、希望者は市のアンケートや民生児童委員を通じて登録しています。

（単位：人）

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
登録者数	7,544	7,691	7,767	7,834	7,915

≪高齢者保健福祉台帳の登録≫

在宅の寝たきりや認知症の高齢者の福祉の向上や安否確認、緊急時の対応など地域における高齢者の見守り体制づくりを目的として実施しており、希望者は民生児童委員や在宅介護支援センターを通じて登録しています。

（単位：人）

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
登録者数	368	372	368	371	376

≪災害時要援護者台帳の登録≫

災害時にひとりで避難することができないおそれのある災害時要援護者が、迅速かつ的確に地域で援助を受けることができる体制づくりを目的として実施しており、希望者は市の案内や民生児童委員を通じて登録しています。

（単位：人）

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
登録者数		7,407	7,492	7,570	7,419	7,357
	ひとり暮らし高齢者	5,843	5,950	6,066	6,005	5,722
	寝たきり・認知症高齢者	181	165	151	123	120
	要介護４・５認定者	212	234	244	211	279
	重度障害者	1,171	1,143	1,109	1,080	1,236

②　養護老人ホームへの入所等

≪短期入所≫

疾病などにより身体が虚弱な高齢者が、一時的に居宅での養護を受けることができない場合に短期入所し、生活習慣改善の支援などを行っています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
利用者数（人）	37	36	54	42	41
延利用日数（日）	604	665	1,069	842	936
うち生活習慣改善					
利用者数（人）	1	12	39	23	31
延利用日数（日）	80	258	891	480	753

≪入所措置≫

環境上や経済上の理由により、家庭で養護を受けることが困難な高齢者を、市内にある養護老人ホームを中心に措置することで入居者を擁護し、その人が自立した生活を営み、社会活動に参加するために必要な指導及び訓練その他の援助を行っています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
措置者数	136	143	140	148	158

③　介護支援

≪介護手当の支給≫

在宅で介護を要する高齢者の介護者の精神的、経済的負担を軽減するため、支給条件を満たす介護者に介護手当を支給しています。（平成 20 年（2008 年）度に県は事業を廃止）

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
支給者数	7	1	3	0	0

④　日常生活支援

≪寝具のクリーニング≫

在宅の寝たきり高齢者の快い就寝を確保するため、寝具のクリーニングを行っています。

（単位：件）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
利用件数	46	39	35	32	26

≪介護用品の支給≫

在宅の寝たきり高齢者の介護者の経済的負担を軽減するため、支給条件を満たした介護者に介護用品(紙おむつ等)購入用のクーポン券を支給しています。

(単位：人)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
支給者数	135	135	111	136	119

≪外出支援（タクシー利用券の交付）≫

バスや電車などを利用することが困難な在宅高齢者の経済的負担を軽減するため、通院用のタクシー利用券を交付しています。

(単位：人)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
交付者数	558	677	676	760	909

≪高齢者等住宅改造費の助成≫

歩行・入浴などの介助が必要な高齢者等が、居住する住宅で安心して自立した生活を送るために住宅を改造する場合は、高齢者等の身体状況などに適した住宅の改造内容を助言するとともに、住宅改造費の一部を助成しています。

(単位：件)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
助成件数	78	84	125	96	132

≪福祉機器の貸出≫

総合福祉センターや地域のコミュニティ･センターなどにおいて、車いすが必要な高齢者等に社会福祉協議会が無料で貸出しを行っています。

(単位：人)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
延利用者数	658	739	789	883	922

≪緊急時の短期入所≫

要援護高齢者の介護者の入院や高齢者虐待等により、要援護高齢者本人の在宅生活を送ることが困難な場合で、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）等に短期入所した場合、介護保険制度の利用限度日数を超えて必要な介護を提供しています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
利用者数（人）	3	3	9	5	1
延利用日数（日）	18	16	53	31	5

⑤　相談支援体制

≪総合相談支援≫

地域包括支援センターは、東部・西部に各１か所設置され、高齢者やその家族からの様々な相談を受け、高齢者等が抱える生活課題を的確に把握し、保健・医療・福祉の各種サービスが受けられるよう必要な援助を行っています。また、在宅介護支援センターは、概ね各中学校区に１か所設置され、高齢者の身近な総合相談窓口となっています。

（単位：件）

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
地域包括支援センター相談件数	3,848	4,820	5,759	5,260	5,332
在宅介護支援センター相談件数	19,035	20,935	19,586	22,190	21,809

⑥　家族介護者等に対する支援

≪徘徊高齢者居場所検索用端末機の貸与≫

徘徊高齢者の居場所を早期に発見するため、徘徊行動のある認知症高齢者を介護している家族に居場所検索用端末機を貸与しています。

（単位：人）

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
貸与者数	4	6	11	6	5

≪認知症家族会・あった会≫

月１回、認知症高齢者を介護している家族や介護経験者等が集い、介護体験の交流を行い、互いに励ましあうとともに助言や情報の提供を行っています。

≪認知症サポーター養成講座≫

認知症サポーターの講師役であるキャラバン・メイトと協働して、市民を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症についての正しい知識と具体的な対応方法などを普及しています。

≪徘徊・見守りＳＯＳネットワーク≫

社会福祉協議会は、警察の不明者捜索の一助とするため、徘徊のおそれのある高齢者を家族等が事前に登録し、高齢者が徘徊した際に、写真情報を添付したメールを協力者へ一斉送信しています。

	平成24年度	平成25年度
利用者登録数（人）	14	38
協力者登録数（人）	98	136
メール発信回数（回）	5	12

⑦　成年後見制度の利用支援

認知症などにより判断能力が低下し、日常生活を営むことに支障がある高齢者等が、より安全な日常生活を営むことができるよう、身寄りがなく保護を必要とする高齢者等については市長が成年後見制度の利用支援を行っています。

（単位：件）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
申立件数	11	18	22	28	23
高齢者	10	17	19	21	19
障害者	1	1	3	7	4

⑧　高齢者特別給付金の支給

国民年金制度上、老齢基礎年金等の受給資格を得ることができなかったため老齢基礎年金等を受けることができず、また、老齢福祉年金等の救済措置を受けることができない外国人高齢者に対し、特別給付金を支給しています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
支給者数	15	12	10	10	7

（２）ひとり暮らし高齢者等日常生活支援事業

①　日常的な訪問、交流

≪友愛訪問（高齢者に関する相談・支援件数）≫

ひとり暮らし高齢者の孤独感を和らげるため、民生児童委員がひとり暮らし高齢者宅へ随時訪問（電話相談含む）し、各種相談などに応じています。

（単位：件）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
相談等件数	8,416	8,280	8,496	8,303	7,560

≪安否確認（保健飲料の配付）≫

ひとり暮らし高齢者の安否確認と健康増進を図るため、週１回、保健飲料をひとり暮らし高齢者の自宅に配付しています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
配付者数	3,258	3,411	3,479	3,531	3,498

≪ふれあい会食≫

ひとり暮らし高齢者等の孤食と閉じこもりを防止するため、社会福祉協議会に委託し、月２回、各地区の会食会場で食事ができるよう進めています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
利用者数（人）	422	418	396	392	377
食数（食）	12,824	11,112	9,928	10,098	9,137

②　緊急時に備えた体制

≪福祉電話の貸与≫

ひとり暮らし高齢者の安否確認と緊急時の連絡のため、電話のない人に対し、電話機の貸与と設置工事費の補助を行っています。

（単位：台）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
貸与数	43	46	51	39	35

≪緊急通報発信装置の貸与≫

ひとり暮らし高齢者等の緊急事態に対応するため、対象者に緊急通報発信装置（安心コール）を貸与しています。緊急時には、近隣協力員への状況確認の訪問を依頼し、必要な対応を行っています。

（単位：台）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
貸与数	737	744	725	708	695

≪日常生活用具の給付≫

火災を予防することを目的として、防火などの配慮が必要な高齢者等を対象に、電磁調理器や火災警報器、自動消火器を給付しています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
給付者数（人）	60	32	21	31	22
給付品目内訳					
電磁調理器（台）	21	23	15	25	18
火災警報器（台）	18	13	15	19	9
自動消火器（台）	21	18	14	22	17

③　シルバーハウジング

生活支援員（ＳＣＳ）が災害復興住宅の入居者同士のコミュニティづくりを促進するとともに、生活援助員（ＬＳＡ）が入居者の安否確認や緊急時の対応などを行っています。

（単位：戸）

シルバーハウジング住宅名	戸数
県営明石清水第２高層住宅	66
市営魚住北住宅	34
市営東二見住宅	34

（３）高齢者生きがい推進事業

①　学習、趣味、教養活動機会の提供

≪あかねが丘学園≫

アクティブシニアのための３年制高齢者大学として、地域社会活動の担い手を養成することを目的に一般教養と専攻コース（本校は、景観園芸・生活ふくし、ふるさとコミュニティ、音楽交流、健康スポーツ交流、分校は、健康科学、陶芸文化のいずれか）を開校しています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
修了者	102	96	44	94	33	84	28	97	37
男性	57	51	29	56	16	51	14	53	21
女性	45	45	15	38	17	33	14	44	16

≪コミセン高齢者大学≫

市内 13 か所の中学校区コミュニティ・センターで、年間 25 日程度実施しています。幅広いテーマの講義や社会参加などの学習活動を通じて、自らの新しい生きがいを探し、こころ豊かな自己の高まりを目指して、地域の大勢の仲間と楽しく学習しています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
修了者	903	931	986	985	978
男性	304	342	357	352	343
女性	599	589	629	633	635

≪シニアカレッジ≫

明石公園内の生涯学習センター分室で開設している高齢者の学習拠点をいい、「自主運営・自主活動」を活動の柱にして、学生の代表者で編成する「運営委員会」が運営しています。学生全員が参加する教養講座のほか、グループに分かれての学習活動やグループ相互の交流もあり、元気に楽しく学びの時間を過ごしています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
修了者	116	124	109	129	134
男性	62	72	65	78	85
女性	54	52	44	51	49

≪高齢者ふれあいの里の設置≫

高齢者の心身の健康増進やレクリエーション、教養の向上のための場を総合的に提供しています。市内４か所に設置しており、健康体操や健康相談、初心者対象の趣味講座の開催、囲碁・将棋・カラオケなどの娯楽設備や図書コーナーを設置しているほか、各館週２回浴室を開放しています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
利用者数	125,493	130,968	133,381	146,739	149,718

≪高年手帳の交付≫

高齢者の社会参加を促すため、高齢者ふれあいの里の利用や天文科学館、文化博物館、県下の公共施設などに割引料金で利用できる高年手帳を交付しています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
交付者数	5,361	4,186	5,377	6,711	6,625

≪高齢者ふれあい入浴の実施≫

高齢者の健康増進と外出促進、地域とのふれあいを図るため、毎週木曜日に市内の公衆浴場は無料入浴（平成 26 年(2014 年)度からは利用者負担 100 円）・割引入浴を実施しています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
利用者数	55,511	76,695	78,786	83,087	81,438

≪はり・灸・マッサージ施術費助成券の交付≫

高齢者の健康維持と社会参加を促進するため、はり・灸・マッサージ施術費助成券（平成 21 年(2009 年)度までは 1,000 円券５枚、平成 22 年(2010 年)度からは 1,000 円券４枚）を交付しています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
交付者数	4,211	3,950	3,947	3,948	3,798

②　スポーツ体験機会の提供

≪高齢者スポーツ大会の実施≫

高年クラブ連合会に委託し、高齢者の交流や心身の健康保持、生きがいづくりを目的として、春・秋に、各６種目のスポーツ大会を実施しています。

		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
		チーム	人員	チーム	人員	チーム	人員
ゲートボール	春	10	54	9	47	8	34
	秋	9	46	9	45	8	38
ローンボウルス	春	9	34	12	45	12	48
	秋	10	39	13	52	8	32
輪投げ	春	36	182	44	220	44	220
	秋	41	205	47	235	46	230
ペタンク	春	45	135	49	144	47	141
	秋	48	144	49	147	45	135
グランドゴルフ	春	107	642	107	642	98	588
	秋	95	579	99	594	100	600
ターゲットバードゴルフ	春	―	―	22	66	24	72
	秋	22	67	21	63	25	75
合計		432	2,127	481	2,300	465	2,213

③　社会参加の機会の整備

≪高年クラブへの助成≫

地域の高齢者が、教養の向上、健康の増進、レクリエーション活動を通して高齢期の生活を健全で豊かなものにするため、自主的に組織化された団体（単位高年クラブ）に助成しています。

＜適合クラブ（30 人以上）＞

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
クラブ数	201	206	205	204	202
会員数（人）	12,056	11,752	11,302	10,779	10,454

＜小規模クラブ（25 人以上 30 人未満）＞

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
クラブ数	17	9	6	4	3
会員数（人）	477	231	115	98	76

≪老人憩の家≫

地域にレクリエーションなどの交流の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくりや健康づくりを推進しています。（平成 28 年(2016 年)度に廃止）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
箇所数	68	68	66	66	65
利用者数（人）	151,017	152,000	134,674	124,225	114,305

≪敬老金の支給≫

長年、社会に貢献してこられた高齢者に敬老の意を表し、長寿を祝福するため、節目の年の９月に敬老金を支給しています。（77 歳は 5,000 円、88 歳は 10,000 円、100 歳は 30,000 円）

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
受給者数	3,093	3,233	3,201	3,302	3,746
77 歳	2,407	2,466	2,403	2,535	2,850
88 歳	653	744	768	737	860
100 歳	33	23	30	30	36

≪敬老会の開催≫

長年、社会に貢献してこられた高齢者に敬老の意を表し、長寿を祝福するため、75 歳以上の高齢者を対象に、自治会などを中心とする小学校区ごとの実行委員会に委託して、敬老会を開催しています。（平成 26 年(2014 年)度から、地域が自主的に実施する敬老会に市が助成する仕組みに見直しました。）

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
対象者数	26,028	27,023	28,437	29,675	31,018
参加者数	5,514	6,139	5,935	5,391	3,850

≪長寿写真の撮影≫

長年、社会に貢献してこられた高齢者に敬老の意を表するため、80 歳に達する年に長寿を祝福する記念として、希望者に撮影した写真を贈呈しています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
贈呈者数	716	741	791	843	751

≪敬老優待乗車券の交付≫

高齢者の外出促進を図り、社会交流を通じて生きがいの向上に役立てるため、70 歳以上の高齢者に敬老優待乗車券を交付しています。市内を運行する民間のバス会社とたこバスを割引利用できるバス共通寿優待乗車証と、2,100 円相当の寿タクシー利用券を、交付申請のあった希望者に郵送により交付しています。

（単位：人）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
交付者数	36,056	37,464	39,169	41,321	43,196

④　就労の支援

≪シルバー人材センターへの支援≫

高齢期の就労機会の増大と生きがいづくりを目的として、高齢者に臨時的かつ短期的な就労機会を提供するシルバー人材センターに対し、補助を行っています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
会員登録数（人）	1,160	1,142	1,105	1,235	1,247
受注件数（件）	7,498	8,253	9,033	9,341	9,589

（４）介護予防事業

①　一次予防事業

≪介護予防普及啓発事業≫

高年クラブやミニケアサロン、自治会の集まりなど地域で活動するグループや、高齢者大学に対して、運動や栄養、口腔保健、認知症予防などをテーマにした健康教育や健康相談を実施し、介護予防に関する知識の普及・啓発を行っています。

＜テーマ別実施状況＞

	平成 24 年度		平成 25 年度	
	回数（回）	参加延人数（人）	回数（回）	参加延人数（人）
生活習慣病予防	9	165	23	1,092
運動	88	3,407	86	2,902
腰痛・膝痛予防	3	82	4	84
口腔保健	12	341	11	254
栄養・食生活	26	636	21	534
認知症予防	27	1,087	22	506

≪地域介護予防活動支援事業≫

地域で自主的に運動を中心とした健康づくりに取り組むグループの育成、活動支援を行っています。

	平成 24 年度	平成 25 年度
自主グループ数	56	60

② 二次予防事業

介護予防事業の二次予防事業対象者の把握については、平成 23 年(2011 年)から３か年をかけて、基本チェックリストによるアンケートを実施し、約 17,000 人が二次予防事業対象者に該当する結果となっています。

また、二次予防事業対象者が要支援・要介護状態にならないために実施している介護予防プログラムの参加者の比率は、平成 24 年(2012 年)度 7.9%、平成 25 年(2013 年)度 5.1%となっています。

二次予防対象者数

（単位：人）

平成 24 年度	全国	高齢者人口	30,949,615
		二次予防事業対象者数（年間発生数）	2,962,006
		二次予防事業対象者数（出現率）	9.6%
	兵庫県	高齢者人口	1,363,902
		二次予防事業対象者数（年間発生数）	112,637
		二次予防事業対象者数（出現率）	8.3%
	明石市	高齢者人口	67,432
		二次予防事業対象者数（年間発生数）	2,871
		二次予防事業対象者数（出現率）	4.3%
平成 25 年度	明石市	高齢者人口	70,502
		二次予防事業対象者数（年間発生数）	5,718
		二次予防事業対象者数（出現率）	8.1%

※介護予防事業報告。

介護予防プログラムの参加状況

（単位：人）

平成 24 年度	全国	介護予防プログラム参加人数	202,284
		二次予防事業対象者に占める割合	6.8%
	兵庫県	介護予防プログラム参加人数	7,007
		二次予防事業対象者に占める割合	6.2%
	明石市	介護予防プログラム参加人数	228
		二次予防事業対象者に占める割合	7.9%
平成 25 年度	明石市	介護予防プログラム参加人数	292
		二次予防事業対象者に占める割合	5.1%

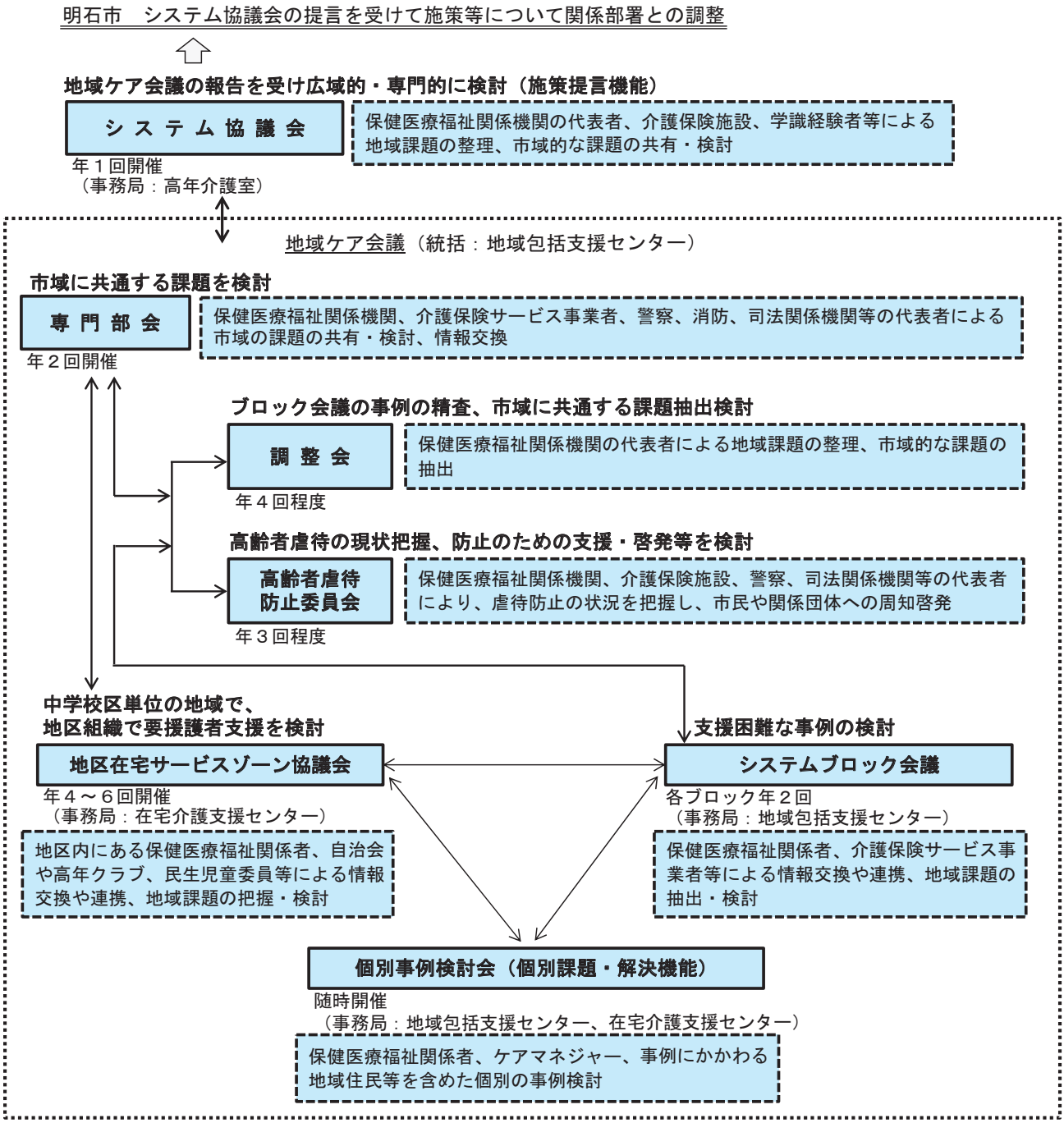
※介護予防事業報告。

（５）地域ネットワーク体制

①　明石市要援護者地域包括ケアシステム（旧明石市要援護者保健医療福祉システム）

明石市要援護者地域包括ケアシステム（以下「要援護者システム」という。）は、平成３年（1991 年）から、保健・医療・福祉関係者が集まり、事例検討を行ってきており、地域ケア会議に求められる機能である“地域課題の抽出、社会資源の開発、課題解決・対策、保健・医療・福祉等の専門機関や住民組織等によるネットワーク、施策への反映”の５つの機能を有する会議の体系を備えています。

明石市要援護者地域包括ケアシステム体系図



（６）地域と連携した高齢者ケアの推進

①　地域の市民や組織による推進

≪地区担当職員による地区社会福祉協議会への支援≫

地区担当職員を配置し、地区社会福祉協議会の事務局支援や、社会福祉協議会や市などにつなぐ相談窓口、団体間のコーディネートなどの活動を行っています。

≪ボランティア組織の活動支援・育成≫

ボランティア組織の連携と育成を図るため、ボランティア連絡会の活動やボランティア交流会の開催などを支援し、ボランティア団体相互の交流と活動の促進に努めています。また、市民のボランティア活動への関心を高めるため、１日ボランティア体験教室を開催しています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
登録団体数	126	120	114	110	107
登録者数（人）	3,644	3,502	3,319	3,213	3,286

≪ミニケア・ふれあいサロンの開設≫

地域で孤立しがちな人が気軽に集える場所として、虚弱高齢者を対象にしたミニケアサロンや、地域住民が対象で高齢者や子どもなどの居場所や交流の場づくりを目的としたふれあいサロンを開設しています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
実施グループ数	57	56	54	57	67
開設数	63	59	58	60	72

≪福祉サービス利用援助事業≫

判断能力に不安のある高齢者や知的障害者、精神障害者が在宅で安心して生活できるよう、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などを支援しています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
派遣世帯数（世帯）	45	45	43	44	45
派遣延回数（回）	1,289	1,289	1,458	1,298	1,490

≪福祉学習の開催≫

小中高生に福祉学習（車いす、アイマスク、手話、点字など）の機会を提供し、福祉の心を育て、福祉の担い手を育てています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
実施箇所（校）	38	25	21	21	27
参加人数（人）	3,897	2,127	2,272	2,253	3,589

４．高齢期の暮らしや介護に関わる調査

平成 27 年(2015 年)度から開始する「明石市高齢者いきいき福祉計画及び第６期介護保険事業計画」を策定するにあたり、高齢者福祉の一層の充実と介護保険制度の円滑な実施に向け、高齢者が地域生活を送る上での課題、今後の意向などをより的確に把握することを目的として実施しました。

（１）日常生活に関するアンケート調査結果のまとめ

日常生活に関するアンケート調査の実施概要

区分	内容
対象者	市内にお住いの 65 歳以上（要介護１以上を除く）の高齢者約 7,500 人を抽出（平成 26 年(2014 年)３月１日現在）
実施期間	平成 26 年(2014 年)３月 10 日～平成 26 年(2014 年)３月 31 日
実施方法	郵送配布、郵送回収
調査結果	配布数：7,574 件　回収数：5,559 件　回答率：73.4%
回答者の主な属性	性別 男　45.1%　女　54.8%　無回答 0.1% 年齢 65～69 歳　25.8%　70～74 歳　30.7%　75～79 歳　22.0% 80～84 歳　13.7%　85 歳以上　7.6%　無回答　0.1% 家族 一人暮らし　18.5%　配偶者と二人暮らし　43.2% 配偶者以外と二人暮らし　6.3%　同居（三人以上）　26.3% その他（施設入居など）　0.5%　無回答　5.3% 認定・該当状況 一般高齢者　58.5%　二次予防　30.3% 要支援１・２　8.8%　無回答　2.4%

・「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
・構成比は、すべて小数点第２位を四捨五入し、小数点第１位までを表記しています。このため、単数回答の場合でも、合計が 100.0%とならない場合があります。
・複数回答の場合、図中に MA と記載し、構成比は回答者数（件数）で割っているため、内訳の合計は 100.0%を超えることになります。
・不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
・表中の ■ は一番目に多い割合の項目、□ は二番目に多い割合の項目を示しています。

①　世帯の状況

ア）世帯構成

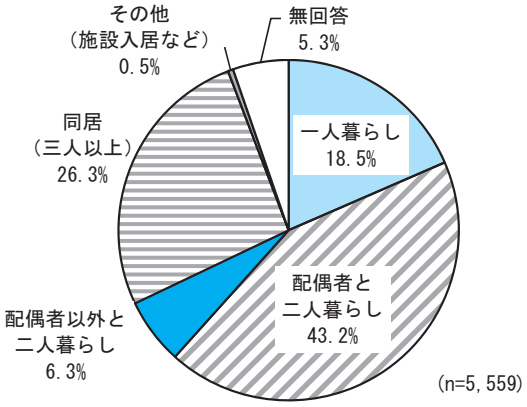
家族構成をお答えください。（○はひとつ）

家族などと同居の方のみにお聞きします。ご自分を含めて何人で暮らしていますか。また、同居されている方はどなたですか。（○はいくつでも）

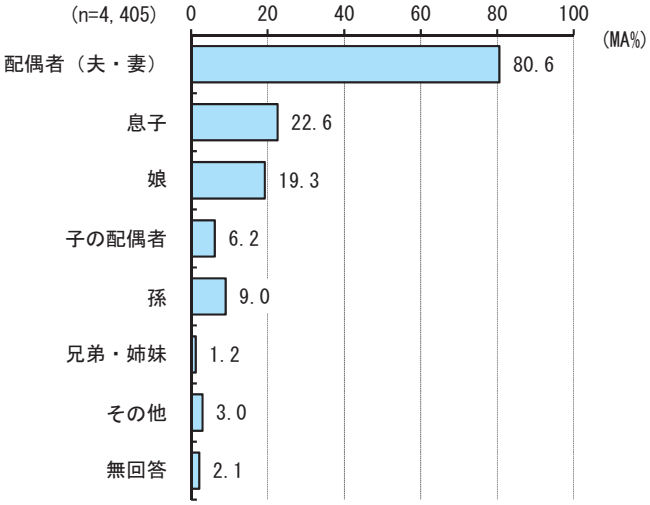
- 世帯構成について、「一人暮らし（18.5%）」「家族などと同居（75.8%※）」「その他（施設入居など）（0.5%）」となっています。
- 「一人暮らし」「配偶者と二人暮らし」をあわせると61.7%を占めています。
- 同居人では、「配偶者（夫・妻）（80.6%）」が最も多く、次いで「息子（22.6%）」となっています。

※同居人数不明者を除く。

世帯構成



同居人

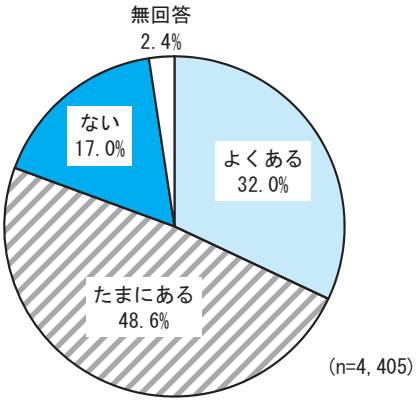


イ）日中独居

家族などと同居の方のみにお聞きします。日中、一人になることがありますか。（○はひとつ）

- 日中に一人になることの有無について、「よくある（32.0%）」「たまにある（48.6%）」をあわせると約８割が“日中独居”と回答しています。
- 「よくある」をみると、女性 75 歳以上（35.0%）、要支援１・２（38.9%）が各カテゴリーの中で割合が最も高く、比較的生活機能の低下リスクが高い層で割合が高くなっています。また、配偶者以外と二人暮らしでは 66.4%、「たまにある」をあわせると 90.3%を占めています。

日中に一人になることの有無



単位：%

		母数 (n)	日中に一人になることの有無				（再掲）よくある・たまにあるの合計
			よくある	たまにある	ない	無回答	
全体		4,405	32.0	48.6	17.0	2.4	80.6
性・年齢	男性65～74歳	1,284	30.2	50.1	17.8	1.9	80.3
	男性75歳以上	880	33.0	51.5	13.5	2.0	84.5
	女性65～74歳	1,356	30.9	47.2	19.4	2.5	78.1
	女性75歳以上	879	35.0	46.0	15.9	3.1	81.0
該当状況	一般高齢者	2,686	29.6	49.4	18.8	2.2	79.0
	二次予防	1,333	35.3	47.0	15.1	2.6	82.3
	要支援１・２	270	38.9	47.4	10.4	3.3	86.3
世帯構成	一人暮らし	-	-	-	-	-	82.1
	配偶者と二人暮らし	2,401	29.3	52.8	16.0	2.0	82.1
	配偶者以外と二人暮らし	348	66.4	23.9	7.8	2.0	90.3
	同居（三人以上）	1,460	28.4	49.2	20.8	1.6	77.6
	その他（施設入居など）	-	-	-	-	-	-
認知機能障害	０レベル：障害なし	3,368	31.1	48.6	18.1	2.3	79.7
	１レベル：境界的	590	35.4	49.5	13.2	1.9	84.9
	２レベル：軽度の障害	200	38.0	48.5	10.0	3.5	86.5
	３レベル：中等度の障害	35	34.3	54.3	2.9	8.6	88.6
	４レベル：やや重度の障害	4	25.0	50.0	25.0	-	75.0
	５レベル：重度の障害	15	26.7	46.7	20.0	6.7	73.4
	６レベル：最重度の障害	-	-	-	-	-	-

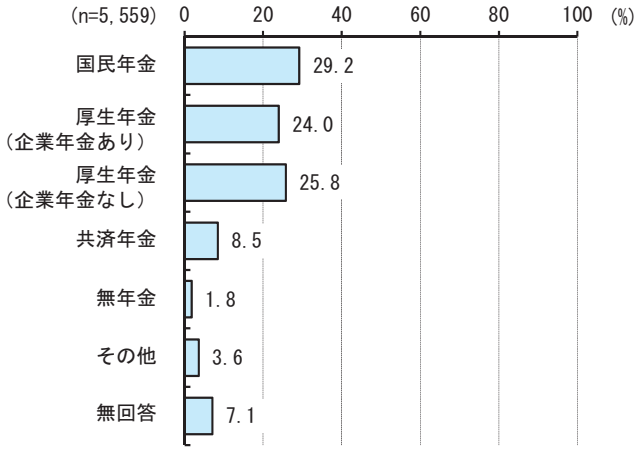
② 暮らし・住まいの状況

ア）年金の種類

年金の種類は次のどれですか。（最も金額の大きいものに○はひとつ）

・年金の種類について、「国民年金（29.2%）」が最も多く、次いで「厚生年金（企業年金なし）（25.8%）」「厚生年金（企業年金あり）（24.0%）」の順に多くなっています。また、「無年金」が 1.8%みられ、「国民年金」とあわせて約３割を占めています。
・女性では「国民年金」が約４割、男性では「厚生年金」が約６割を占めています。

年金の種類

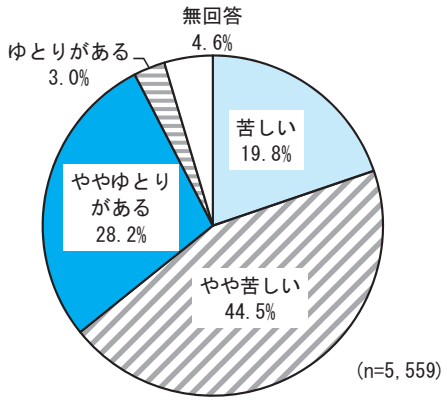


イ）暮らしの状況

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（○はひとつ）

・現在の暮らしの状況について、「苦しい（19.8%）」「やや苦しい（44.5%）」をあわせると６割以上になっています。
・「苦しい」との回答が“国民年金”では 25.8%みられます。

暮らしの状況



単位：%

		母数(n)	暮らしの状況					（再掲）苦しい・やや苦しいの合計
			苦しい	やや苦しい	ややゆとりがある	ゆとりがある	無回答	
全体		5,559	19.8	44.5	28.2	3.0	4.6	64.3
年金の種類	国民年金	1,624	25.8	42.4	24.9	2.5	4.4	68.2
	厚生年金（企業年金あり）	1,335	15.0	46.4	33.8	3.3	1.6	61.4
	厚生年金（企業年金なし）	1,437	18.2	51.6	24.9	2.6	2.6	69.8
	共済年金	471	9.6	40.8	42.0	5.1	2.5	50.4
	無年金	98	50.0	36.7	9.2	1.0	3.1	86.7
	その他	202	30.2	35.6	26.7	3.0	4.5	65.8

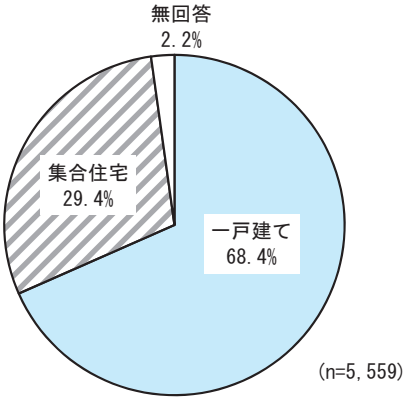
ウ）住まいの状況

お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。（○はひとつ）

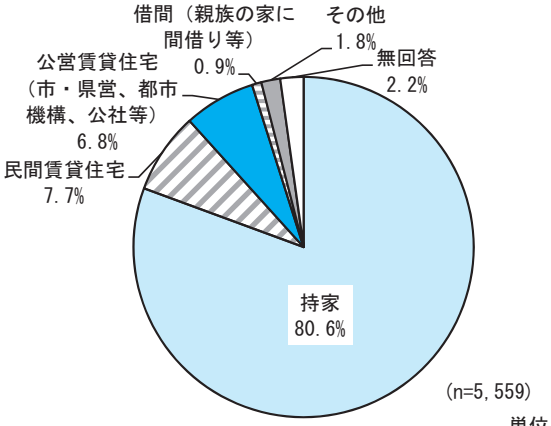
お住まいは、次のどれにあたりますか。（○はひとつ）

- 住宅の形態について、「一戸建て（68.4%）」「集合住宅（29.4%）」となっています。
- 住まいの種類について、「持家（80.6%）」が最も多く、次いで「民間賃貸住宅（7.7%）」「公営賃貸住宅（市・県営、都市機構、公社等）（6.8%）」の順になっています。
- 「借家・借間」をみると、朝霧圏域（24.9%）、魚住東圏域（21.1%）が多くなっています。

住宅の形態



住まいの種類



単位：%

		母数(n)	住宅の形態			住まいの種類						（再掲）借家・借間の合計
			一戸建て	集合住宅	無回答	持家	民間賃貸住宅	公営賃貸住宅	借間	その他	無回答	
全体		5,559	68.4	29.4	2.2	80.6	7.7	6.8	0.9	1.8	2.2	15.4
性・年齢	男性65～74歳	1,466	67.7	30.9	1.4	83.0	8.9	4.9	0.7	1.2	1.3	14.5
	男性75歳以上	1,039	70.2	27.0	2.8	78.8	6.5	8.8	0.9	1.8	3.2	16.2
	女性65～74歳	1,677	67.3	30.9	1.8	82.7	6.9	6.5	0.7	1.4	1.8	14.1
	女性75歳以上	1,370	69.1	27.6	3.4	76.6	8.4	7.6	1.3	3.1	3.1	17.3
圏域	錦城	204	59.8	38.2	2.0	84.3	9.3	0.5	－	3.9	2.0	9.8
	朝霧	482	57.3	40.9	1.9	71.8	2.9	21.0	1.0	1.7	1.7	24.9
	大蔵	457	66.5	30.6	2.8	84.0	8.8	0.4	1.3	2.2	3.3	10.5
	衣川	441	60.1	36.5	3.4	76.0	11.6	4.8	0.9	3.9	2.9	17.3
	野々池	483	68.3	29.0	2.7	80.3	16.4	－	0.2	1.2	1.9	16.6
	望海	530	65.8	31.9	2.3	76.6	10.8	7.5	1.5	0.8	2.8	19.8
	大久保	466	69.7	27.9	2.4	87.8	7.3	0.9	0.6	1.3	2.1	8.8
	大久保北	358	75.7	21.5	2.8	81.3	5.6	7.8	0.8	2.0	2.5	14.2
	高丘	430	63.0	35.1	1.9	82.3	1.9	12.1	－	1.9	1.9	14.0
	江井島	281	82.6	16.0	1.4	87.5	4.6	1.1	3.6	1.1	2.1	9.3
	魚住	425	76.9	21.4	1.6	81.9	5.9	7.5	0.9	1.9	1.9	14.3
	魚住東	426	74.4	23.9	1.6	75.8	10.3	10.3	0.5	1.2	1.9	21.1
	二見	445	71.7	26.1	2.2	81.1	4.3	9.2	0.7	2.5	2.2	14.2
世帯構成	一人暮らし	1,027	51.6	45.2	3.2	64.5	17.2	11.7	1.0	2.6	3.0	29.9
	配偶者と二人暮らし	2,401	70.2	28.4	1.4	86.3	5.0	5.8	0.5	1.2	1.2	11.3
	配偶者以外と二人暮らし	348	63.5	33.9	2.6	76.1	8.6	7.2	2.0	3.7	2.3	17.8
	同居（三人以上）	1,460	81.2	17.5	1.3	87.3	4.5	3.7	0.8	1.5	2.2	9.0
	その他（施設入居など）	30	30.0	60.0	10.0	40.0	13.3	26.7	3.3	13.3	3.3	43.3
住まい	持家	4,479	81.7	18.0	0.3	100.0	－	－	－	－	－	－
	借家・借間 ※	855	9.4	87.4	3.3	－	50.3	44.0	5.7	－	－	100.0
	その他	101	40.6	50.5	8.9	－	－	－	－	100.0	－	－

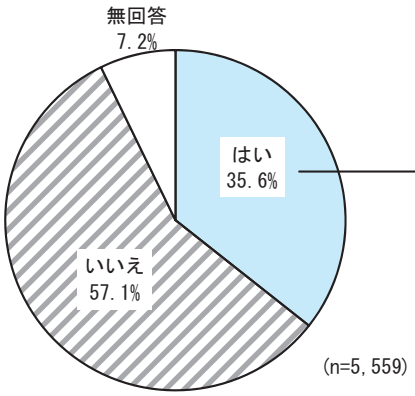
※借家・借間とは、「民間賃貸住宅」「公営賃貸住宅」「借間」の合計

エ）エレベーターの設置状況

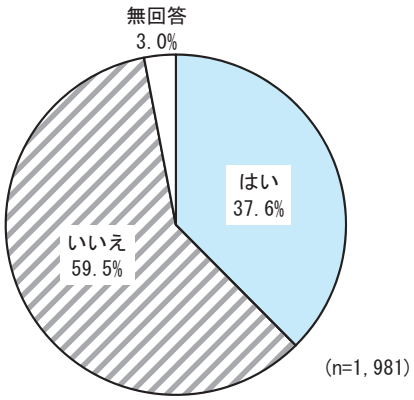
お住まい（“主に”生活する部屋）は２階以上にありますか。（○はひとつ）
お住まいが２階以上の方のみにお聞きします。お住まいにエレベーターは設置されていますか。（○はひとつ）

- 主に生活する部屋について、35.6%が２階以上にあると回答しています。
- 主に生活する部屋が２階以上にあり、エレベーターが設置されているとの回答が 37.6%であり、要支援１・２では 41.1%になっています。
- エレベーターの設置なしと回答している人は、設置ありに比べて外出をやや控える傾向にあります。

主に生活する部屋は２階以上



エレベーターの設置状況



単位：%

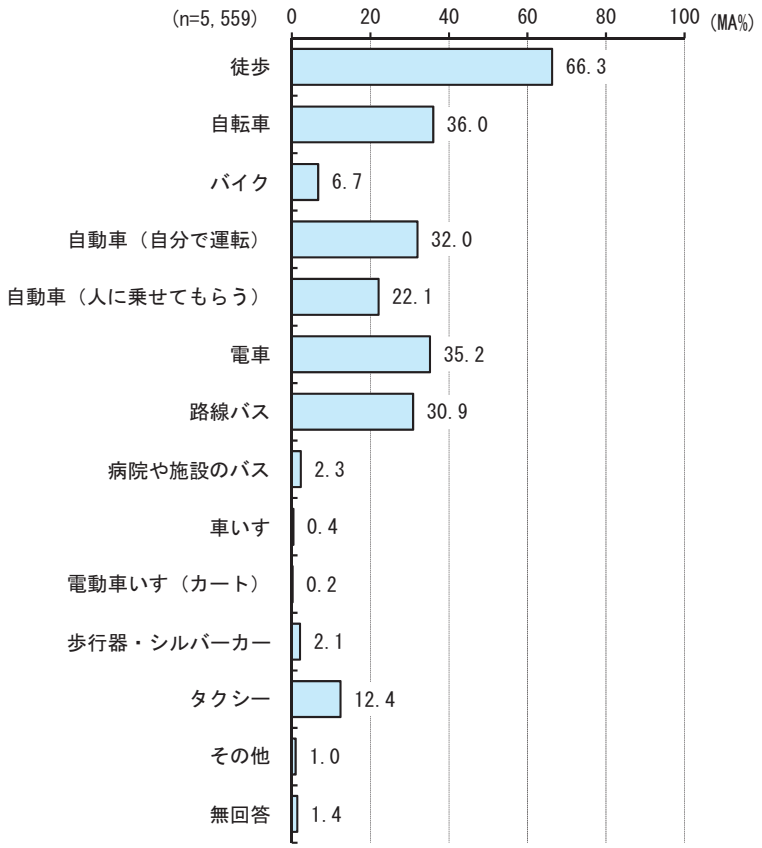
		母数(n)	[2.問1]階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか			[2.問7]外出を控えていますか		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,981	63.2	34.6	2.2	20.9	73.9	5.2
[1.問7-1]お住いにエレベーターは設置されていますか	はい	744	67.3	31.0	1.6	19.2	75.9	4.8
	いいえ	1,178	61.6	36.6	1.8	21.6	73.3	5.1

③　外出する際の交通手段

外出する際の移動手段は何ですか。（○はいくつでも）

・外出する際の交通手段について、「徒歩（66.3%）」が最も多く、次いで「自転車（36.0%）」「電車（35.2%）」の順になっています。
・「徒歩」をみると、一般高齢者（72.5%）、二次予防（59.5%）、要支援１・２（47.3%）と生活機能の低下とともに割合が低下しており、「自動車（人に乗せてもらう）」や「タクシー」への交通手段の変化がみられます。

外出する際の交通手段



単位：%

		母数(n)	外出する際の交通手段（MA）													
			徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体		5,559	66.3	36.0	6.7	32.0	22.1	35.2	30.9	2.3	0.4	0.2	2.1	12.4	1.0	1.4
該当状況	一般高齢者	3,250	72.5	41.7	7.7	38.4	19.3	39.8	29.6	0.8	－	－	0.1	7.1	0.5	1.3
	二次予防	1,687	59.5	32.5	6.6	26.9	23.8	32.0	34.3	2.1	0.4	0.1	2.0	15.4	1.3	1.4
	要支援１・２	491	47.3	7.9	0.8	6.3	34.8	15.5	27.7	13.6	3.1	1.2	16.1	39.1	3.3	2.4

④　介護の状況等

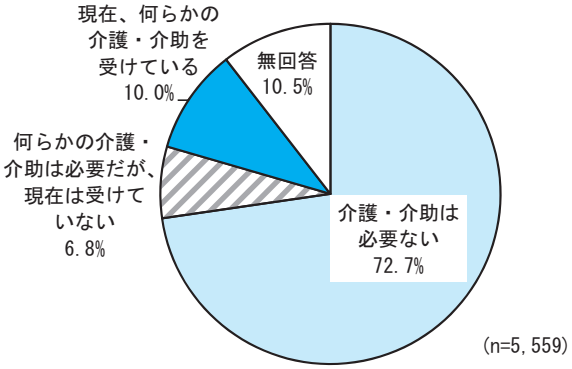
ア）介護・介助の必要性

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。（○はひとつ）

・介護・介助の必要性について、回答者全体の 72.7%が「介護・介助は必要ない」と回答しています。一方で、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない（6.8%）」「現在、何らかの介護・介助を受けている（10.0%）」をあわせると 16.8%が“介護・介助が必要”と回答しています。

・世帯構成をみると“介護・介助が必要”について、一人暮らし（25.7%）で割合が高く、また、一般高齢者（5.0%）と二次予防（22.6%）を比較すると４倍以上の差がみられます。

介護・介助の必要性



単位：%

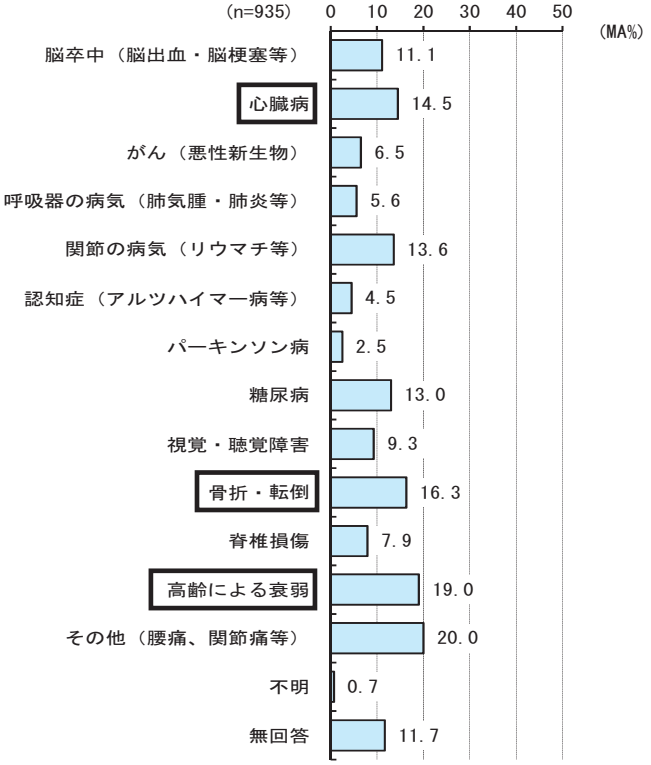
		母数(n)	介護・介助の必要性				（再掲）介護・介助が必要の合計
			介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護・介助を受けている	無回答	
全体		5,559	72.7	6.8	10.0	10.5	16.8
性・年齢	男性65～74歳	1,466	81.7	4.2	4.0	10.1	8.2
	男性75歳以上	1,039	68.7	9.5	12.8	9.0	22.3
	女性65～74歳	1,677	81.9	3.6	4.5	10.0	8.1
	女性75歳以上	1,370	54.8	11.5	21.1	12.6	32.6
該当状況	一般高齢者	3,250	84.7	3.1	1.9	10.3	5.0
	二次予防	1,687	66.1	11.9	10.7	11.3	22.6
	要支援１・２	491	13.6	15.1	62.9	8.4	78.0
世帯構成	一人暮らし	1,027	67.3	11.0	14.7	7.0	25.7
	配偶者と二人暮らし	2,401	78.1	5.0	7.6	9.3	12.6
	配偶者以外と二人暮らし	348	70.7	7.8	14.1	7.5	21.9
	同居（三人以上）	1,460	74.0	5.8	9.4	10.8	15.2
	その他（施設入居など）	30	46.7	26.7	26.7	－	53.4

イ）介護・介助が必要になった主な原因

介護・介助が必要な方のみにお聞きします。介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（○はいくつでも）

- 介護・介助が必要になった主な原因について、「高齢による衰弱」「骨折・転倒」「心臓病」が多くなっています。「その他」では、腰痛、関節痛が多くなっています。
- 性・年齢をみると、男性は女性に比べて「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「心臓病」の割合が高く、女性は男性に比べて「関節の病気（リウマチ等）」「骨折・転倒」の割合が高くなっています。
- 要支援１・２では、「高齢による衰弱」「骨折・転倒」が多くなっています。

介護・介助が必要になった主な原因



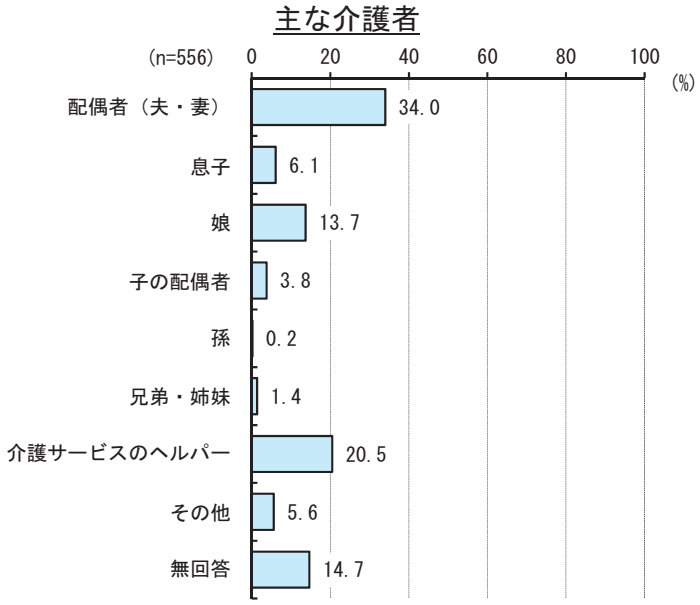
単位：%

		母数(n)	介護・介助が必要になった主な原因（MA）														
			脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	がん（悪性新生物）	呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）	関節の病気（リウマチ等）	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	糖尿病	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他（腰痛、関節痛等）	不明	無回答
全体		935	11.1	14.5	6.5	5.6	13.6	4.5	2.5	13.0	9.3	16.3	7.9	19.0	20.0	0.7	11.7
性・年齢	男性65～74歳	121	22.3	21.5	12.4	9.1	5.8	5.8	1.7	19.8	7.4	5.8	4.1	8.3	14.9	1.7	7.4
	男性75歳以上	232	14.7	19.0	8.6	8.2	9.1	6.5	3.4	13.8	9.5	10.8	6.5	24.1	16.4	1.3	10.3
	女性65～74歳	135	12.6	11.1	6.7	4.4	19.3	5.9	4.4	14.8	5.9	13.3	11.1	8.1	26.7	0.7	10.4
	女性75歳以上	446	5.8	11.4	3.8	3.6	16.4	2.5	1.6	10.3	10.8	22.9	8.7	22.6	21.3	0.2	13.9
該当状況	一般高齢者	162	13.6	15.4	8.6	4.3	5.6	6.2	3.7	14.2	5.6	3.7	3.7	10.5	16.0	－	18.5
	二次予防	381	9.7	15.7	7.1	5.5	13.9	6.6	1.8	16.3	10.8	14.4	6.8	18.1	18.4	1.0	14.4
	要支援１・２	383	11.5	12.8	5.0	6.3	16.7	1.6	2.3	9.7	9.7	23.5	11.0	24.0	23.5	0.8	6.0

ウ）主な介護者

介護・介助を受けている方のみにお聞きします。“主に”どなたの介護・介助を受けていますか。（○はひとつ）

・主な介護者について、「配偶者（夫・妻）（34.0%）」が最も多く、次いで「介護サービスのヘルパー（20.5%）」「娘（13.7%）」の順になっています。



単位：%

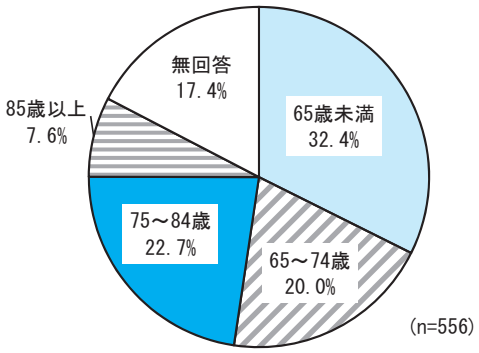
		母数(n)	主な介護者								
			配偶者（夫・妻）	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	介護サービスのヘルパー	その他	無回答
全体		556	34.0	6.1	13.7	3.8	0.2	1.4	20.5	5.6	14.7
性・年齢	男性65～74歳	59	67.8	1.7	5.1	1.7	－	－	11.9	3.4	8.5
	男性75歳以上	133	55.6	1.5	4.5	0.8	0.8	1.5	15.0	4.5	15.8
	女性65～74歳	75	40.0	6.7	6.7	1.3	－	6.7	16.0	10.7	12.0
	女性75歳以上	289	15.6	9.0	21.5	6.2	－	0.3	26.0	5.2	16.3
該当状況	一般高齢者	62	59.7	4.8	6.5	4.8	1.6	4.8	－	6.5	11.3
	二次予防	181	48.6	7.7	21.0	3.9	－	2.2	1.7	7.2	7.7
	要支援１・２	309	19.7	5.5	11.0	3.6	－	0.3	35.9	4.5	19.4
世帯構成	一人暮らし	151	2.6	4.0	11.3	2.6	－	0.7	47.0	7.9	23.8
	配偶者と二人暮らし	182	74.2	0.5	1.6	1.1	－	1.1	8.8	1.6	11.0
	配偶者以外と二人暮らし	49	－	20.4	36.7	－	－	6.1	22.4	8.2	6.1
	同居（三人以上）	137	29.2	10.2	20.4	10.9	0.7	1.5	7.3	5.8	13.9
	その他（施設入居など）	8	37.5	－	12.5	－	－	－	－	25.0	25.0

エ）介護者の年齢

介護・介助を受けている方のみにお聞きします。“主に”介護・介助している方の年齢は、次のどれですか。（○はひとつ）

・介護者の年齢について、「65 歳未満（32.4%）」が最も多く、次いで「75～84 歳（22.7%）」「65～74 歳（20.0%）」「85 歳以上（7.6%）」の順となっています。65 歳以上が 50.3%を占めており、そのうち後期高齢者のみをみても 30.3%となっています。

介護者の年齢



単位：%

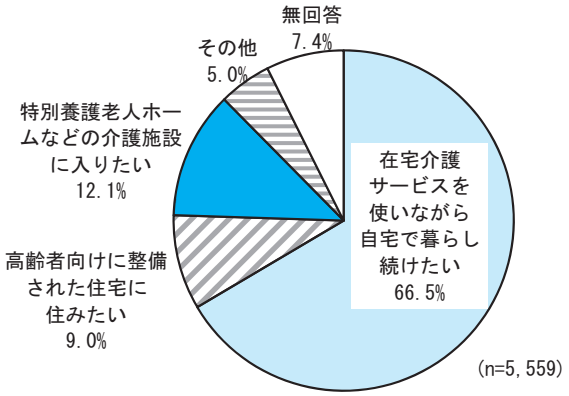
		母数(n)	介護者の年齢					（再掲）65歳以上	（再掲）後期高齢者
			65歳未満	65～74歳	75～84歳	85歳以上	無回答		
全体		556	32.4	20.0	22.7	7.6	17.4	50.3	30.3
性・年齢	男性65～74歳	59	32.2	52.5	1.7	1.7	11.9	55.9	3.4
	男性75歳以上	133	15.8	15.8	41.4	9.8	17.3	67.0	51.2
	女性65～74歳	75	20.0	38.7	21.3	1.3	18.7	61.3	22.6
	女性75歳以上	289	43.3	10.4	18.7	9.3	18.3	38.4	28.0
該当状況	一般高齢者	62	21.0	30.6	29.0	6.5	12.9	66.1	35.5
	二次予防	181	28.2	28.7	25.4	5.5	12.2	59.6	30.9
	要支援１・２	309	37.2	12.3	20.1	9.1	21.4	41.5	29.2

オ）介護が必要になった場合に希望する生活

あなたは介護が必要になった場合にどのような生活を希望しますか。(○はひとつ)

- 介護が必要になった場合、希望する生活について、「在宅介護サービスを使いながら自宅で暮らし続けたい（66.5%）」が最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい（12.1%）」「高齢者向けに整備された住宅に住みたい（9.0%）」の順となっています。
- 介護保険施設や高齢者向けの住宅への住み替え意向が、全体でみると２割強みられ、住まいの状況をみると、持家より借家・借間の人に住み替え意向が高い傾向にあります。
- 「高齢者向けに整備された住宅に住みたい」との回答は、圏域別では錦城圏域（14.7%）、大久保圏域（13.1%）、朝霧圏域（11.2%）の順に多くなっています。

介護が必要になった場合に希望する生活



単位：%

		母数(n)	介護が必要になった場合に希望する生活					（再掲）施設・高齢者向け住宅の意向あり
			在宅介護サービスを使いながら自宅で暮らし続けたい	高齢者向けに整備された住宅に住みたい	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	その他	無回答	
全体		5,559	66.5	9.0	12.1	5.0	7.4	21.1
該当状況	一般高齢者	3,250	67.0	9.0	11.0	5.2	7.9	20.0
	二次予防	1,687	66.7	8.9	13.5	4.6	6.3	22.4
	要支援１・２	491	65.2	10.2	12.8	4.3	7.5	23.0
圏域	錦城	204	63.7	14.7	10.3	5.9	5.4	25.0
	朝霧	482	65.4	11.2	11.4	4.6	7.5	22.6
	大蔵	457	66.1	9.0	11.2	4.2	9.6	20.2
	衣川	441	64.9	9.8	11.6	4.8	9.1	21.4
	野々池	483	67.7	7.5	9.9	7.7	7.2	17.4
	望海	530	68.5	6.6	13.0	4.2	7.7	19.6
	大久保	466	61.4	13.1	14.6	3.6	7.3	27.7
	大久保北	358	65.1	8.1	11.7	6.4	8.7	19.8
	高丘	430	68.6	8.8	12.3	4.2	6.0	21.1
	江井島	281	71.9	5.0	8.9	7.1	7.1	13.9
	魚住	425	64.7	9.2	12.7	6.1	7.3	21.9
	魚住東	426	70.4	7.0	12.9	4.0	5.6	19.9
	二見	445	69.0	9.4	12.4	2.9	6.3	21.8
世帯構成	一人暮らし	1,027	61.4	11.0	13.2	6.9	7.4	24.2
	配偶者と二人暮らし	2,401	67.5	9.9	11.7	4.2	6.7	21.6
	配偶者以外と二人暮らし	348	64.1	6.0	16.7	6.9	6.3	22.7
	同居（三人以上）	1,460	71.0	7.1	10.8	4.3	6.8	17.9
	その他（施設入居など）	30	43.3	6.7	23.3	6.7	20.0	30.0
住まい	持家	4,479	68.6	9.1	12.1	4.4	5.8	21.2
	借家・借間	855	62.2	9.6	13.5	7.1	7.6	23.1
	その他	101	58.4	7.9	11.9	13.9	7.9	19.8

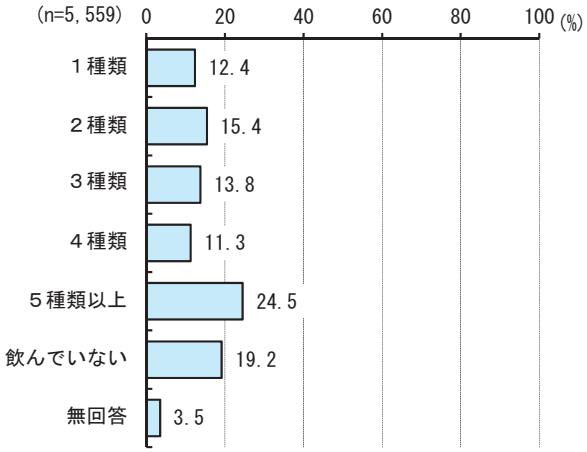
⑤　介護と医療の状況について

ア）処方されている薬の種類

現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。（○はひとつ）

・処方されている薬の種類について、「１種類（12.4%）」「２種類（15.4%）」「３種類（13.8%）」「４種類（11.3%）」「５種類以上（24.5%）」となっています。一方で、「飲んでいない」は約２割となっています。
・年齢をみると、65 歳以上 75 歳未満では「飲んでいない」が多くなっていますが、75 歳以上では「５種類以上」が最も多くなっています。

処方されている薬の種類



単位：%

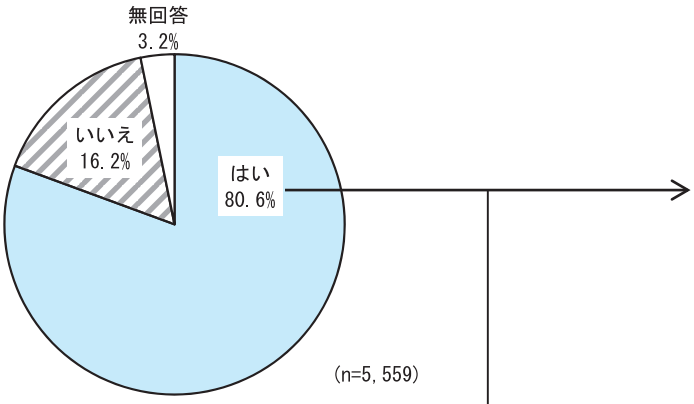
		母数(n)	処方されている薬の種類						
			１種類	２種類	３種類	４種類	５種類以上	飲んでいない	無回答
全体		5,559	12.4	15.4	13.8	11.3	24.5	19.2	3.5
年齢	65～69歳	1,437	15.1	16.8	10.0	7.8	15.9	32.3	2.2
	70～74歳	1,706	13.4	16.4	15.1	11.8	19.6	20.8	2.9
	75～79歳	1,225	11.6	15.9	14.5	12.9	28.7	12.1	4.2
	80～84歳	762	8.8	12.3	16.8	11.7	36.6	8.5	5.2
	85歳以上	422	7.8	10.4	13.5	15.6	39.8	8.5	4.3
リスク判定・該当	運動器の機能向上	888	15.3	9.2	17.2	2.4	15.0	15.3	44.4
	閉じこもり予防・支援	231	7.8	6.5	10.0	0.4	9.1	19.9	53.2
	栄養改善	72	20.9	7.2	18.2	3.1	15.5	15.6	41.7
	口腔機能の向上	1,139	20.9	7.2	18.2	3.1	15.5	15.6	41.7
	認知症予防・支援	1,759	22.5	6.9	19.0	2.2	13.9	15.9	40.2
	うつ予防・支援	1,493	20.4	8.2	19.2	2.3	15.1	15.5	40.4
	虚弱	337	9.8	8.9	12.8	2.4	9.8	19.3	50.4
	二次予防	1,687	20.0	7.8	17.9	2.5	15.3	15.8	41.6

イ）通院状況

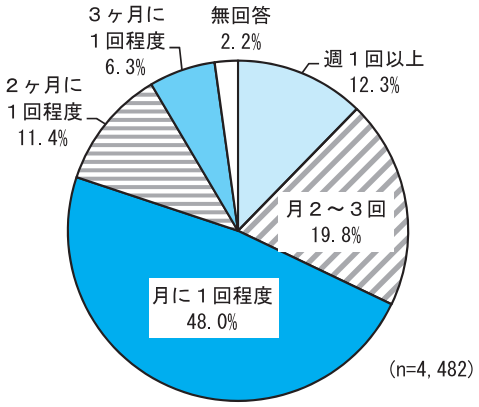
現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院していますか。（○はひとつ）
通院している方のみにお聞きします。その頻度は次のどれですか。（○はひとつ）
通院している方のみにお聞きします。通院に介助が必要ですか。（○はひとつ）

- 通院状況について、「はい（通院している）」は 80.6%となっています。
- 通院の頻度と通院の際の介助の有無について、通院の頻度は「月に１回程度（48.0%）」が最も多く、また、“通院の際の介助は必要ない”が 82.0%と多数を占めています。

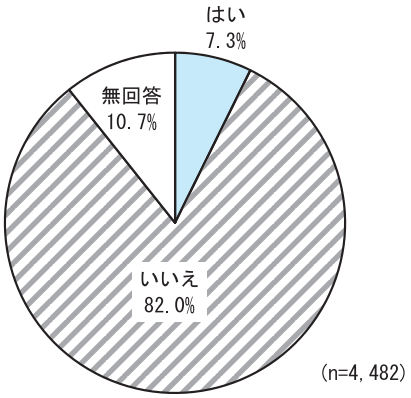
通院の有無



通院の頻度



通院の際の介助の有無



単位：%

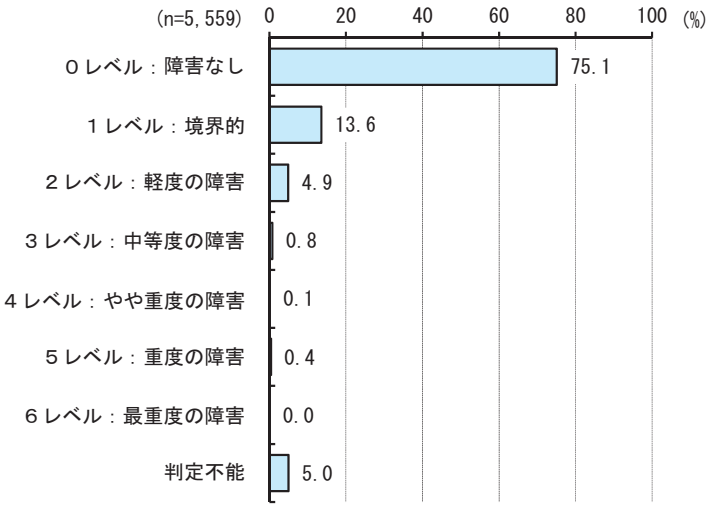
		母数 (n)	通院の際の介助の有無		
			はい	いいえ	無回答
全体		4,482	7.3	82.0	10.7
性・年齢	男性65～74歳	1,113	3.9	87.9	8.3
	男性75歳以上	891	8.3	81.5	10.2
	女性65～74歳	1,262	3.3	87.1	9.6
	女性75歳以上	1,211	14.0	71.4	14.5
該当状況	一般高齢者	2,503	1.4	88.7	10.0
	二次予防	1,425	10.2	77.8	11.9
	要支援１・２	454	32.4	56.6	11.0

⑥　認知症施策の推進に係る事項

ア）認知機能障害程度（ＣＰＳ）

・認知機能障害程度（ＣＰＳ）のリスク判定について、「０レベル：障害なし（75.1%）」「１レベル：境界的（13.6%）」「２レベル：軽度の障害（4.9%）」「３レベル：中等度の障害（0.8%）」「４レベル：やや重度の障害（0.1%）」「５レベル：重度の障害（0.4%）」「６レベル：最重度の障害（0.0%）」となっています。
・世帯構成をみると、「配偶者と二人暮らし」「同居（三人以上）」の割合が高くなっています。

認知機能障害程度（ＣＰＳ）



単位：%

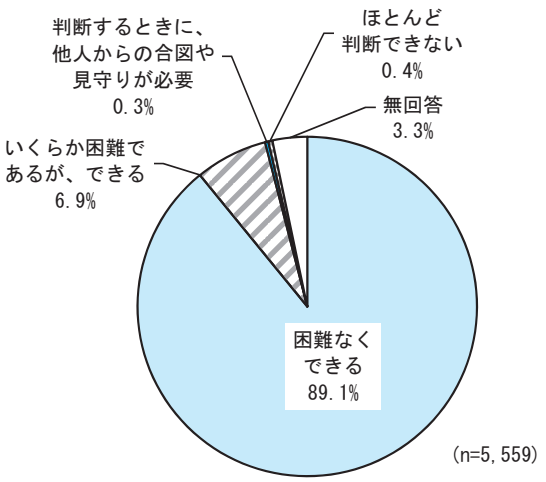
		母数(n)	世帯構成					
			一人暮らし	配偶者と二人暮らし	配偶者以外と二人暮らし	同居（三人以上）	その他（施設入居など）	無回答
全体		5,559	18.5	43.2	6.3	26.3	0.5	5.3
認知機能障害	０レベル：障害なし	4,177	17.9	45.5	6.1	26.0	0.4	4.2
	１レベル：境界的	757	18.5	37.8	6.2	29.7	0.9	6.9
	２レベル：軽度の障害	273	23.4	35.2	8.4	24.2	1.1	7.7
	３レベル：中等度の障害	47	21.3	31.9	8.5	29.8	－	8.5
	４レベル：やや重度の障害	7	28.6	14.3	－	42.9	14.3	－
	５レベル：重度の障害	20	15.0	50.0	－	20.0	－	15.0
	６レベル：最重度の障害	－	－	－	－	－	－	－

イ）物忘れ

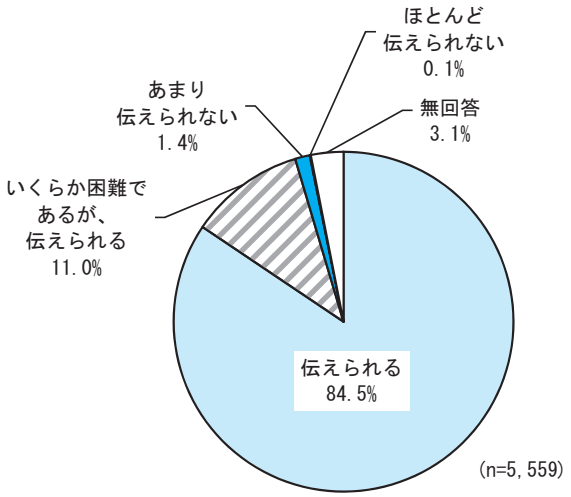
- 「周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われる」との回答が 16.5%となっています。また、認知機能障害別にみると、２レベル（軽度の障害）以上で“あり”が多くなる傾向がみられます。
- 人に自分の考えを「あまり伝えられない」「ほとんど伝えられない」について、認知機能障害別にみると、３レベル（中等度の障害）以上で割合が高くなっています。

物忘れに関する設問

[5. 問 5]その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか



[5. 問 6] 人に自分の考えをうまく伝えられますか



単位：%

		母数(n)	いつも同じ事を聞く（物忘れ）			人に自分の考えをうまく伝えられるか				
			はい（あり）	いいえ（なし）	無回答	伝えられる	いくらか困難であるが、伝えられる	あまり伝えられない	ほとんど伝えられない	無回答
全体		5,559	16.5	78.5	5.0	84.5	11.0	1.4	0.1	3.1
性・年齢	男性65～74歳	1,466	14.1	82.3	3.6	87.9	8.5	0.8	0.1	2.9
	男性75歳以上	1,039	19.9	74.8	5.3	78.9	14.8	2.5	0.1	3.7
	女性65～74歳	1,677	11.9	83.8	4.3	90.5	5.8	0.8	－	2.9
	女性75歳以上	1,370	22.0	70.8	7.2	77.7	17.1	2.0	0.1	3.1
該当状況	一般高齢者	3,250	9.0	85.9	5.1	91.1	4.6	0.4	－	3.9
	二次予防	1,687	26.7	68.9	4.4	78.1	17.9	2.0	0.1	2.0
	要支援１・２	491	31.4	61.5	7.1	62.5	28.7	6.3	0.4	2.0
認知機能障害	０レベル：障害なし	4,177	11.3	87.1	1.6	100.0	－	－	－	－
	１レベル：境界的	757	27.6	70.0	2.4	53.8	43.3	2.9	－	－
	２レベル：軽度の障害	273	59.0	35.9	5.1	9.2	90.8	－	－	－
	３レベル：中等度の障害	47	72.3	21.3	6.4	2.1	14.9	80.9	2.1	－
	４レベル：やや重度の障害	7	71.4	28.6	－	－	－	100.0	－	－
	５レベル：重度の障害	20	35.0	60.0	5.0	55.0	20.0	10.0	10.0	5.0
	６レベル：最重度の障害	－	－	－	－	－	－	－	－	－

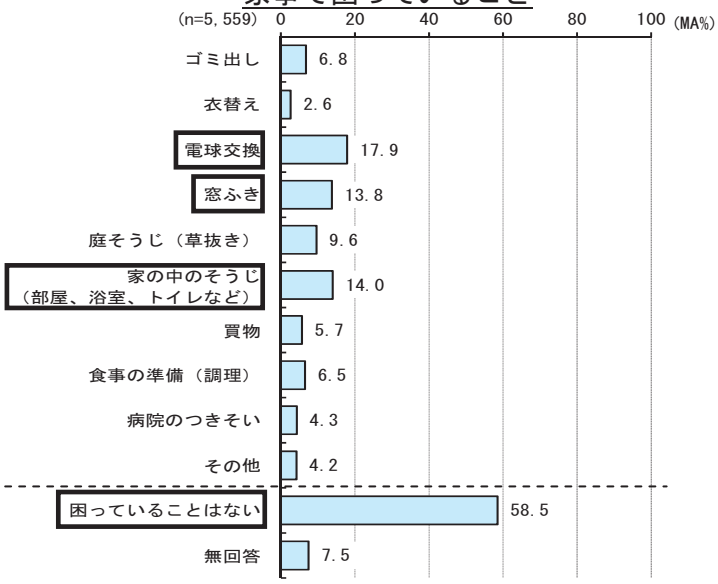
⑦　生活支援サービスの充実・強化に係る事項

ア）家事で困っていること

家事で困っていることはありますか。（○はいくつでも）

・家事で困っていることについて、「困っていることはない（58.5%）」が最も多く、次いで「電球交換（17.9%）」「家の中のそうじ（部屋、浴室、トイレなど）（14.0%）」「窓ふき（13.8%）」の順になっています。
・性別をみると、男性では「家の中のそうじ（部屋、浴室、トイレなど）（12.3%）」、女性では「電球交換（32.6%）」「窓ふき（22.3%）」「家の中のそうじ（部屋、浴室、トイレなど）（18.8%）」「庭そうじ（草抜き）（14.8%）」「ゴミ出し（10.8%）」で困っているとの回答が１割以上みられ、性別によって困りごとの内容に違いがみられます。
・該当状況をみると、要支援１・２では「電球交換（54.2%）」「家の中のそうじ（部屋、浴室、トイレなど）（51.9%）」で困っているとの回答が半数を超え、次いで「窓ふき（47.5%）」「庭そうじ（草抜き）（32.8%）」「ゴミ出し・買物（30.8%）」の順になっています。

家事で困っていること



単位：%

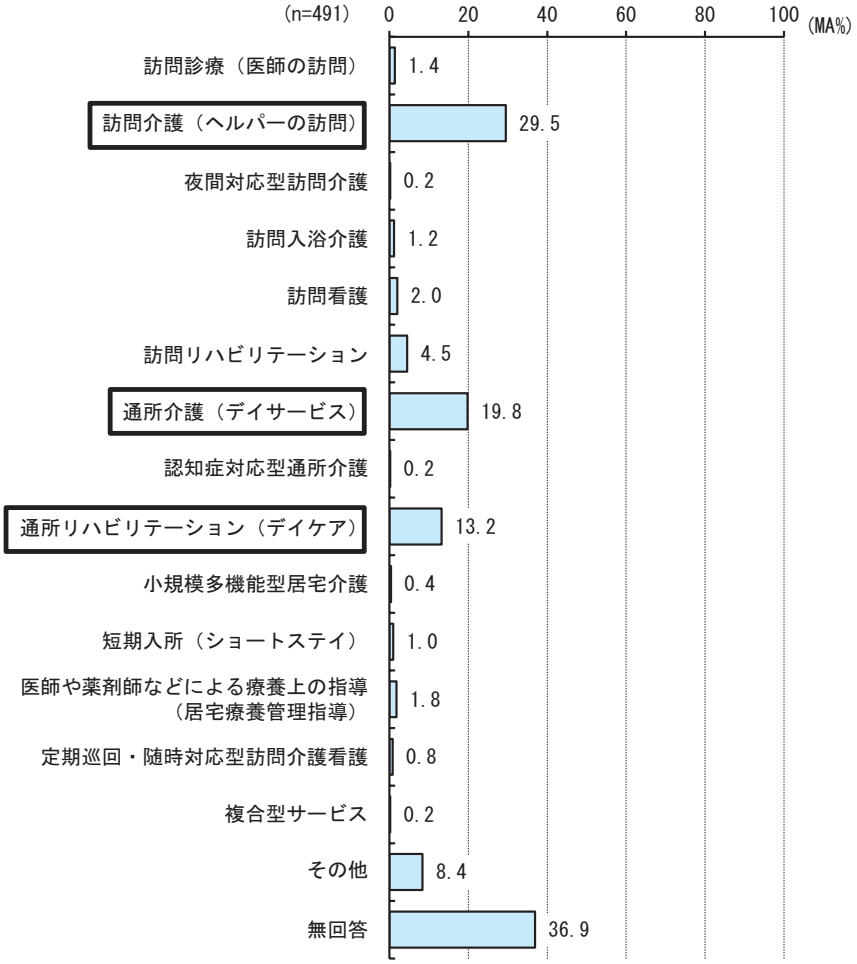
		母数(n)	家事で困っていること（MA）											
			ゴミ出し	衣替え	電球交換	窓ふき	庭そうじ（草抜き）	家の中のそうじ（部屋、浴室、トイレなど）	買物	食事の準備（調理）	病院のつきそい	その他	困っていることはない	無回答
全体		5,559	6.8	2.6	17.9	13.8	9.6	14.0	5.7	6.5	4.3	4.2	58.5	7.5
性・年齢	男性65～74歳	1,466	2.6	1.0	3.5	5.3	3.9	8.3	1.8	7.4	1.4	2.7	74.4	7.2
	男性75歳以上	1,039	6.7	3.2	11.9	12.5	10.3	17.8	6.0	12.0	5.6	4.1	55.5	8.3
	女性65～74歳	1,677	3.9	2.0	16.5	10.6	6.9	7.9	2.9	1.9	2.4	3.6	65.0	7.4
	女性75歳以上	1,370	14.9	4.5	39.5	27.8	18.5	24.7	13.1	6.9	8.8	6.7	35.9	7.5
該当状況	一般高齢者	3,250	1.9	0.8	9.3	5.6	4.4	5.1	1.0	3.1	0.9	2.9	72.3	7.8
	二次予防	1,687	9.7	4.0	24.5	20.0	13.2	20.7	7.7	8.8	6.9	5.9	44.4	7.4
	要支援１・２	491	30.8	9.4	54.2	47.5	32.8	51.9	30.8	21.4	18.9	8.1	13.6	5.9
世帯構成	一人暮らし	1,027	11.6	3.4	34.3	26.1	14.4	24.5	9.7	6.9	6.0	6.8	40.8	5.6
	配偶者と二人暮らし	2,401	4.7	1.8	12.3	9.7	7.4	10.5	3.8	6.5	3.0	2.7	65.9	7.5
	配偶者以外と二人暮らし	348	8.6	2.6	25.6	16.7	11.2	17.0	9.5	4.0	5.5	6.6	51.7	5.5
	同居（三人以上）	1,460	6.0	2.7	13.4	11.2	9.5	11.2	4.4	6.2	4.4	3.8	62.9	8.8
	その他（施設入居など）	30	13.3	3.3	20.0	13.3	13.3	20.0	10.0	16.7	10.0	20.0	26.7	20.0

⑧　利用している在宅サービス

以下の在宅サービスを利用していますか。（○はいくつでも）

・要支援１・２で利用している在宅サービスについて、「訪問介護（ヘルパーの訪問）（29.5%）」が最も多く、次いで「通所介護（デイサービス）（19.8%）」「通所リハビリテーション（デイケア）（13.2%）」の順になっています。「その他」では、買物、そうじ、配食が多くなっています。

利用している在宅サービス



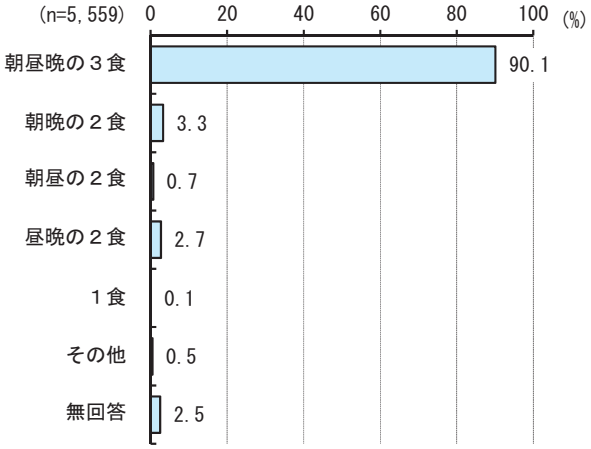
⑨　食事について

ア）１日の食事回数

１日の食事の回数は何回ですか。（○はひとつ）

・１日の食事回数について、「朝昼晩の３食（90.1%）」が多数を占めています。
・生活機能の低下とともに１日の食事回数が減る割合が高く、一人暮らしもその他の世帯構成と比べると１日の食事回数が減る割合が高くなっています。

１日の食事回数



単位：%

		母数(n)	１日の食事回数						
			朝昼晩の３食	朝晩の２食	朝昼の２食	昼晩の２食	１食	その他	無回答
全体		5,559	90.1	3.3	0.7	2.7	0.1	0.5	2.5
性・年齢	男性65～74歳	1,466	89.6	3.3	0.6	3.5	0.3	0.7	1.9
	男性75歳以上	1,039	87.7	3.8	1.1	3.3	－	0.7	3.5
	女性65～74歳	1,677	91.7	3.0	0.8	1.8	0.1	0.4	2.2
	女性75歳以上	1,370	90.7	3.3	0.5	2.6	－	0.4	2.6
該当状況	一般高齢者	3,250	91.6	2.7	0.7	1.9	0.1	0.2	2.8
	二次予防	1,687	89.0	4.0	0.8	3.6	0.2	0.8	1.7
	要支援１・２	491	84.5	4.5	1.0	5.1	0.2	1.2	3.5
世帯構成	一人暮らし	1,027	82.8	6.6	1.5	5.2	0.4	1.1	2.5
	配偶者と二人暮らし	2,401	92.4	2.6	0.4	2.0	－	0.3	2.2
	配偶者以外と二人暮らし	348	89.4	3.2	0.9	2.9	－	1.1	2.6
	同居（三人以上）	1,460	93.4	2.1	0.5	1.8	0.1	0.1	2.0
	その他（施設入居など）	30	80.0	3.3	6.7	－	－	3.3	6.7

単位：%

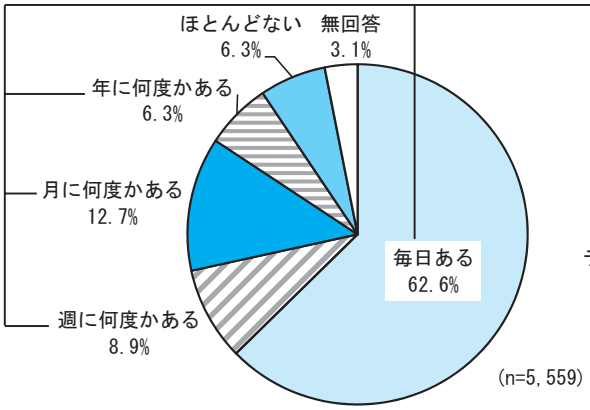
		母数(n)	自分で食事の用意をしていない、できないと回答した方×１日の食事回数						
			朝昼晩の３食	朝晩の２食	朝昼の２食	昼晩の２食	１食	その他	無回答
全体		1,674	91.9	2.5	0.4	2.4	0.1	0.6	2.1
[6.問3-1] 食事の用意をする人は“主に”どなたですか	同居の家族	1,467	93.1	2.0	0.3	2.2	0.1	0.4	1.8
	別居の家族	28	82.1	3.6	－	7.1	－	3.6	3.6
	ヘルパー	6	66.7	16.7	－	－	－	－	16.7
	配食サービス利用	30	80.0	3.3	－	6.7	－	3.3	6.7
	その他	37	67.6	10.8	2.7	8.1	2.7	5.4	2.7

⑩　どなたかと食事をする機会

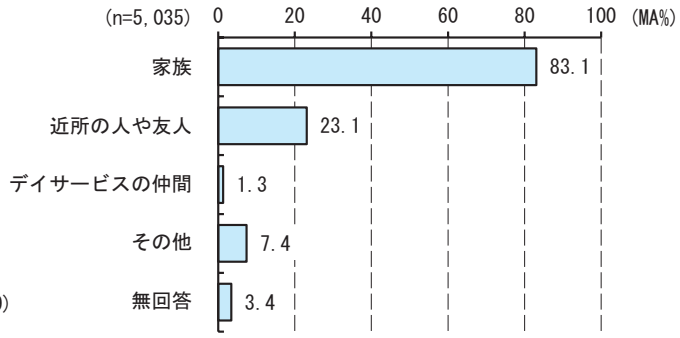
自分一人ではなく、どなたかと食事をともにする機会はありますか。(○はひとつ)
どなたかと食事をともにする機会がある方のみにお聞きします。食事をともにする人はどなたですか。(○はいくつでも)

- どなたかと食事をする機会について、「毎日ある（62.6%）」が最も多く、次いで「月に何度かある（12.7%）」「週に何度かある（8.9%）」の順になっています。“機会がある”との回答は90.5%となっています。
- 「ほとんどない」をみると、要支援１・２（13.2%）、一人暮らし（17.1%）などで１割を超えています。
- 食事の相手は、「家族（83.1%）」が多数を占めています。「その他」では、職場の同僚・仕事関係の人、社会的活動グループの知人が多くなっています。

どなたかと食事をともにする機会



食事の相手



単位：%

		母数(n)	どなたかと食事をする機会					
			毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
全体		5,559	62.6	8.9	12.7	6.3	6.3	3.1
性・年齢	男性65～74歳	1,466	70.7	7.7	8.4	4.4	6.5	2.4
	男性75歳以上	1,039	66.2	5.4	9.6	6.6	8.5	3.7
	女性65～74歳	1,677	66.4	9.3	14.0	4.8	2.7	2.8
	女性75歳以上	1,370	46.8	12.5	18.1	9.9	8.9	3.8
該当状況	一般高齢者	3,250	67.7	8.1	11.2	5.2	4.3	3.5
	二次予防	1,687	58.7	8.9	14.8	7.1	8.4	2.1
	要支援１・２	491	39.1	14.7	17.7	11.6	13.2	3.7
世帯構成	一人暮らし	1,027	4.8	20.2	37.4	17.5	17.1	3.0
	配偶者と二人暮らし	2,401	79.7	4.5	6.5	3.5	2.8	2.9
	配偶者以外と二人暮らし	348	59.8	18.4	10.1	3.7	6.0	2.0
	同居（三人以上）	1,460	79.0	6.0	6.0	3.5	3.6	1.8
	その他（施設入居など）	30	36.7	3.3	20.0	6.7	16.7	16.7

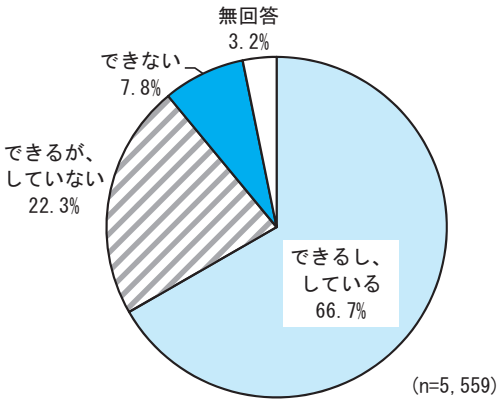
⑪　食事の用意

自分で食事の用意をしていますか。（○はひとつ）

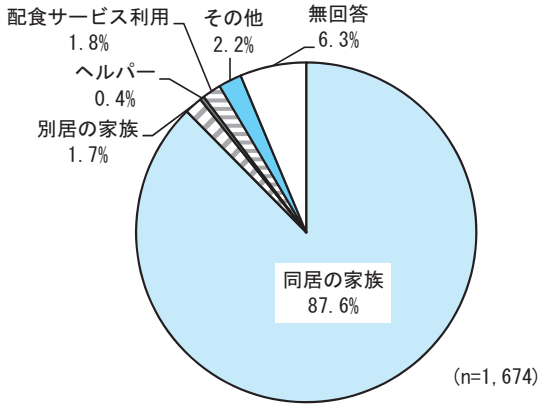
自分で食事の用意をしていない、できない方のみにお聞きします。食事の用意をする人は“主に”どなたですか。（○はひとつ）

- 食事の用意について、「できるが、していない（22.3%）」「できない（7.8%）」をあわせると 30.1%を占めており、女性より男性で多くなっています。
- 自分で用意をしていない、できない人に主に用意する人を尋ねると、「同居の家族（87.6%）」が最も多くなっています。また、「配食サービス利用」をみると、一人暮らし（33.8%）では３人に１人が利用していると回答があり、要支援１・２（9.4%）でも約１割みられます。

食事の用意



主に食事を用意する人



単位：%

		母数(n)	食事の用意 できるし、している	できるが、していない	できない	無回答	（再掲）していない、できない
全体		5,559	66.7	22.3	7.8	3.2	30.1
性・年齢	男性65～74歳	1,466	39.5	44.3	13.0	3.1	57.3
	男性75歳以上	1,039	39.3	40.3	16.3	4.1	56.6
	女性65～74歳	1,677	94.4	2.7	0.6	2.3	3.3
	女性75歳以上	1,370	82.8	8.8	4.7	3.6	13.5
該当状況	一般高齢者	3,250	68.2	23.6	5.2	2.9	28.8
	二次予防	1,687	66.1	20.9	10.0	3.0	30.9
	要支援１・２	491	60.1	16.9	17.9	5.1	34.8
世帯構成	一人暮らし	1,027	90.2	5.3	1.7	2.9	7.0
	配偶者と二人暮らし	2,401	58.9	28.5	9.6	3.0	38.1
	配偶者以外と二人暮らし	348	86.2	6.9	4.3	2.6	11.2
	同居（三人以上）	1,460	58.2	28.6	9.8	3.4	38.4
	その他（施設入居など）	30	46.7	20.0	26.7	6.7	46.7
認知機能障害	０レベル：障害なし	4,177	69.5	22.3	5.7	2.5	28.0
	１レベル：境界的	757	60.1	24.8	11.6	3.4	36.4
	２レベル：軽度の障害	273	51.6	21.2	23.1	4.0	44.3
	３レベル：中等度の障害	47	40.4	19.1	36.2	4.3	55.3
	４レベル：やや重度の障害	7	14.3	－	85.7	－	85.7
	５レベル：重度の障害	20	45.0	25.0	25.0	5.0	50.0
	６レベル：最重度の障害	－	－	－	－	－	－

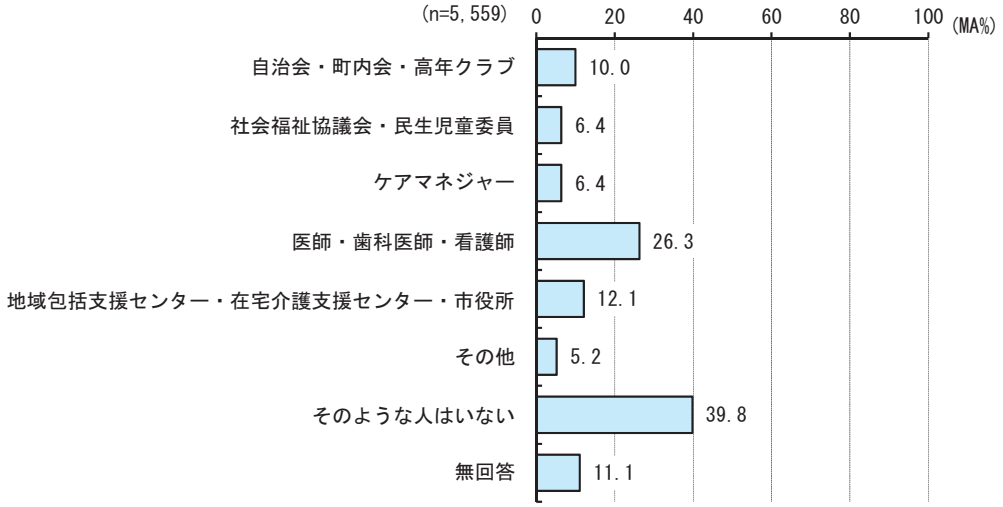
		母数(n)	主に食事の用意をする人 同居の家族	別居の家族	ヘルパー	配食サービス利用	その他	無回答
全体		1,674	87.6	1.7	0.4	1.8	2.2	6.3
性・年齢	男性65～74歳	841	92.0	0.2	0.1	0.5	1.3	5.8
	男性75歳以上	588	89.6	1.2	0.3	1.2	1.5	6.1
	女性65～74歳	56	64.3	5.4	1.8	12.5	8.9	7.1
	女性75歳以上	186	68.3	8.6	1.1	6.5	6.5	9.1
該当状況	一般高齢者	937	91.7	0.7	－	0.6	1.3	5.7
	二次予防	521	87.5	1.9	－	1.5	2.1	6.9
	要支援１・２	171	64.3	6.4	3.5	9.4	7.6	8.8
世帯構成	一人暮らし	71	2.8	26.8	2.8	33.8	21.1	12.7
	配偶者と二人暮らし	915	93.0	0.7	0.1	0.1	0.7	5.5
	配偶者以外と二人暮らし	39	79.5	－	5.1	－	7.7	7.7
	同居（三人以上）	561	92.5	0.2	－	0.5	0.9	5.9
	その他（施設入居など）	14	21.4	－	－	7.1	50.0	21.4
認知機能障害	０レベル：障害なし	1,170	89.9	1.0	0.3	1.5	1.8	5.5
	１レベル：境界的	276	84.8	1.8	－	2.5	2.5	8.3
	２レベル：軽度の障害	121	81.0	4.1	－	3.3	5.8	5.8
	３レベル：中等度の障害	26	80.8	3.8	3.8	－	－	11.5
	４レベル：やや重度の障害	6	66.7	－	－	16.7	－	16.7
	５レベル：重度の障害	10	70.0	10.0	－	－	－	20.0
	６レベル：最重度の障害	－	－	－	－	－	－	－

⑫　家族や友人・知人以外の相談相手

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手をお答えください。（○はいくつでも）

・家族や友人・知人以外の相談相手について、「そのような人はいない（39.8%）」が最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師（26.3%）」「地域包括支援センター・在宅介護支援センター・市役所（12.1%）」の順になっています。
・該当状況をみると、要支援１・２では「ケアマネジャー」の割合が高くなっています。

家族や友人・知人以外の相談相手



⑬　リスク要因保有者割合

	リスク要因保有者割合									
	1 運動器の 機能向上	2 栄養改善	3 口腔機能の 向上	4 閉じこもり	5 認知症 予防・支援	6 うつ予防・ 支援	7 転倒	8 ＩＡＤＬ	9 知的能動性	１０ 社会的役割
全体	18.0%	1.5%	23.1%	4.7%	35.6%	30.2%	29.8%	11.7%	32.9%	52.9%
錦城	16.2%	0.0%	24.9%	③5.4%	28.6%	27.6%	30.9%	13.2%	27.0%	53.0%
朝霧	18.0%	1.7%	①26.2%	4.3%	35.5%	28.8%	①33.2%	9.3%	32.1%	51.8%
大蔵	17.6%	①2.4%	21.0%	3.3%	33.3%	27.4%	25.6%	8.5%	28.2%	51.2%
衣川	17.3%	1.3%	③25.5%	②5.6%	34.7%	28.6%	②32.9%	①15.2%	34.2%	53.7%
野々池	18.1%	1.8%	24.3%	③5.4%	③38.2%	②33.9%	31.1%	10.3%	②38.5%	③54.2%
望海	①22.5%	0.8%	22.5%	5.2%	①39.7%	③32.2%	30.9%	11.0%	35.7%	②55.0%
大久保	18.1%	1.2%	20.5%	3.5%	35.8%	30.9%	27.7%	10.7%	28.6%	53.8%
大久保北	14.8%	0.9%	②25.6%	3.0%	37.0%	29.5%	29.6%	③13.6%	33.0%	50.9%
高丘	17.9%	1.3%	21.3%	3.1%	32.3%	26.9%	27.4%	10.9%	29.0%	①55.8%
江井島	②21.3%	1.5%	22.1%	①9.4%	35.6%	29.6%	31.0%	12.8%	33.5%	48.8%
魚住	16.4%	③1.9%	22.5%	5.0%	②38.4%	①34.9%	30.1%	12.4%	③37.4%	53.4%
魚住東	14.2%	②2.3%	23.0%	4.6%	31.9%	29.1%	28.8%	13.1%	31.2%	52.3%
二見	③19.8%	1.3%	21.6%	4.8%	37.7%	31.4%	③31.9%	②13.7%	①38.9%	52.8%

※リスク要因保有者割合については項目ごとに、要支援・要介護になる可能性が高い圏域の順位を上位３位まで網掛けして表示しています。

リスク要因保有者割合（割合が高い方が要支援・要介護状態になる可能性が高い）

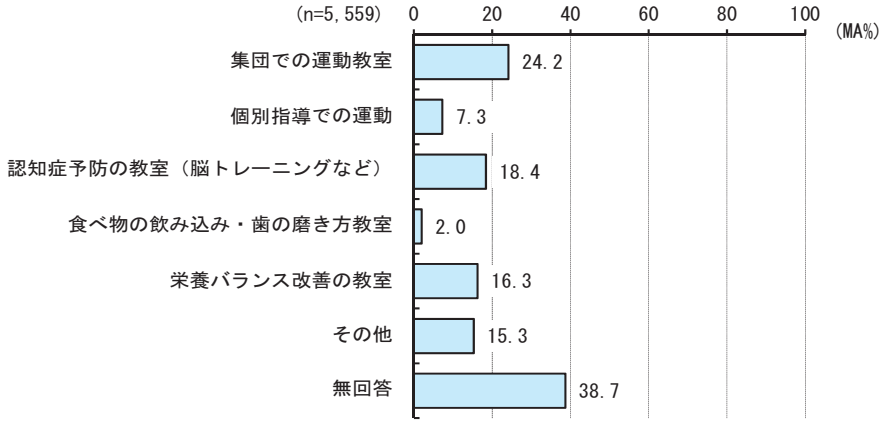
1　運動器の機能向上：階段の昇降、歩行、外出、買物・散歩など、運動に関わること。
2　栄養改善　　：体重や身長、食事など、栄養に関わること。
3　口腔機能の向上　：飲食や歯など、口腔に関わること。
4　閉じこもり　　：外出に関わること。
5　認知症予防・支援：物忘れ、日常の判断など、認知症に関わること。
6　うつ予防・支援　：健康観、充実感など、うつに関わること
7　転倒　　：転倒経験、外出、杖の利用など、転倒に関わること。
8　ＩＡＤＬ　　：バスや電車による外出、日用品の買物、食事の用意、お金の利用などに関わること。
9　知的能動性　　：書類の記入、新聞や本を読むこと、健康への関心などに関わること。
10　社会的役割　　：友人との付き合い、相談にのること、お見舞いなどに関わること。

⑭　希望する介護予防教室

介護を受けないための予防として参加したい教室はありますか。(○はいくつでも)

・希望する介護予防教室について、「集団での運動教室（24.2%）」が最も多く、次いで「認知症予防の教室（脳トレーニングなど）（18.4%）」「栄養バランス改善の教室（16.3%）」の順になっています。
・リスク判定・該当をみると、運動器の機能向上に該当する人は、比較的「認知症予防の教室（17.2%）」を希望している割合が高くなっています。

希望する介護予防教室



単位：%

		母数(n)	希望する介護予防教室（MA）						
			集団での運動教室	個別指導での運動	認知症予防の教室（脳トレーニングなど）	食べ物の飲み込み・歯の磨き方教室	栄養バランス改善の教室	その他	無回答
全体		5,559	24.2	7.3	18.4	2.0	16.3	15.3	38.7
性・年齢	男性65～74歳	1,466	23.8	8.8	14.7	1.6	14.1	20.8	33.9
	男性75歳以上	1,039	18.2	6.0	12.3	2.1	10.0	18.4	46.5
	女性65～74歳	1,677	32.4	7.2	25.4	1.9	23.6	10.4	32.3
	女性75歳以上	1,370	19.1	6.9	18.2	2.6	14.6	13.1	45.5
該当状況	一般高齢者	3,250	27.5	6.4	19.5	1.6	18.0	15.0	35.8
	二次予防	1,687	20.0	7.8	17.9	2.5	15.3	15.8	41.6
	要支援１・２	491	15.5	11.2	11.8	3.3	9.2	15.5	48.7
圏域	錦城	204	26.0	8.8	22.5	2.5	22.5	11.8	35.8
	朝霧	482	23.2	5.6	18.0	3.3	15.6	15.8	38.2
	大蔵	457	29.5	8.1	17.9	0.7	18.6	15.5	33.7
	衣川	441	22.0	5.0	17.2	2.5	19.3	14.5	42.6
	野々池	483	22.4	5.6	15.3	0.4	14.9	16.4	42.9
	望海	530	22.1	6.0	18.5	2.3	12.1	16.2	41.7
	大久保	466	26.2	8.8	17.2	1.9	14.6	13.7	36.7
	大久保北	358	27.1	7.5	17.6	2.2	17.3	15.1	36.9
	高丘	430	27.2	10.7	21.2	2.3	16.3	17.2	31.6
	江井島	281	23.5	6.4	15.3	0.7	14.6	14.6	44.1
	魚住	425	22.1	8.7	20.9	1.9	15.5	15.8	40.9
	魚住東	426	21.4	6.3	19.7	2.3	18.5	13.1	39.4
	二見	445	22.0	7.9	18.4	2.9	17.1	16.6	38.2
リスク判定・該当	運動器の機能向上	888	15.3	9.2	17.2	2.4	15.0	15.3	44.4
	閉じこもり予防・支援	231	7.8	6.5	10.0	0.4	9.1	19.9	53.2
	栄養改善	72	20.9	7.2	18.2	3.1	15.5	15.6	41.7
	口腔機能の向上	1,139	20.9	7.2	18.2	3.1	15.5	15.6	41.7
	認知症予防・支援	1,759	22.5	6.9	19.0	2.2	13.9	15.9	40.2
	うつ予防・支援	1,493	20.4	8.2	19.2	2.3	15.1	15.5	40.4
	虚弱	337	9.8	8.9	12.8	2.4	9.8	19.3	50.4
	二次予防	1,687	20.0	7.8	17.9	2.5	15.3	15.8	41.6

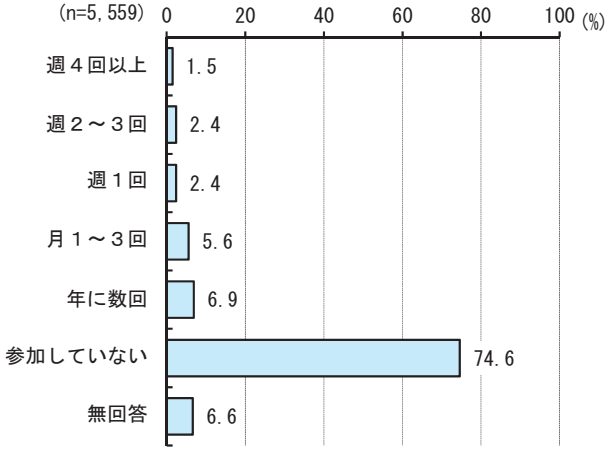
⑮　ボランティア活動

ア）ボランティア活動の参加頻度

ボランティアにどのくらいの頻度で参加していますか。

・ボランティア活動への参加頻度について、「参加していない（74.6%）」が最も多く、次いで「年に数回（6.9%）」「月１～３回（5.6%）」の順になっています。
・ボランティア活動への参加が“月１回以上”と回答している人は、一般高齢者が13.8%、圏域別をみると、錦城圏域、魚住圏域が最も多くなっています。

ボランティア活動への参加頻度



単位：%

		母数(n)	ボランティア活動への参加頻度 週４回以上	週２～３回	週１回	月１～３回	年に数回	参加していない	無回答	（再掲）月１回以上
全体		5,559	1.5	2.4	2.4	5.6	6.9	74.6	6.6	11.9
性・年齢	男性65～74歳	1,466	2.0	1.9	2.0	4.6	8.7	77.3	3.4	10.5
	男性75歳以上	1,039	2.0	3.1	2.0	5.1	6.3	76.0	5.5	12.2
	女性65～74歳	1,677	1.1	2.2	3.3	7.2	7.4	73.2	5.6	13.8
	女性75歳以上	1,370	0.9	2.5	2.1	5.0	5.1	72.3	12.2	10.5
該当状況	一般高齢者	3,250	1.8	2.7	3.0	6.3	8.3	72.2	5.8	13.8
	二次予防	1,687	1.1	1.9	1.6	4.8	5.3	78.3	7.1	9.4
	要支援１・２	491	0.2	1.8	1.0	3.1	2.4	79.6	11.8	6.1
圏域	錦城	204	－	2.9	4.4	7.8	3.4	75.0	6.4	15.1
	朝霧	482	2.1	3.7	1.2	6.2	7.5	73.7	5.6	13.2
	大蔵	457	2.2	2.2	3.1	5.5	5.7	73.7	7.7	13.0
	衣川	441	1.1	2.7	2.5	4.3	6.1	75.1	8.2	10.6
	野々池	483	1.7	1.0	2.3	5.6	7.9	74.7	6.8	10.6
	望海	530	1.3	3.2	3.8	4.2	4.9	75.3	7.4	12.5
	大久保	466	1.3	2.6	1.9	4.5	6.0	76.8	6.9	10.3
	大久保北	358	0.8	2.5	1.7	6.4	10.6	70.9	7.0	11.4
	高丘	430	0.9	1.9	2.3	7.0	9.8	74.0	4.2	12.1
	江井島	281	0.4	1.4	2.5	6.4	5.7	77.6	6.0	10.7
	魚住	425	3.5	2.4	2.8	6.4	6.1	71.1	7.8	15.1
	魚住東	426	0.7	2.3	1.6	4.5	5.4	80.3	5.2	9.1
	二見	445	1.1	1.8	1.6	5.4	8.5	73.9	7.6	9.9

イ）ボランティア活動への参加意向

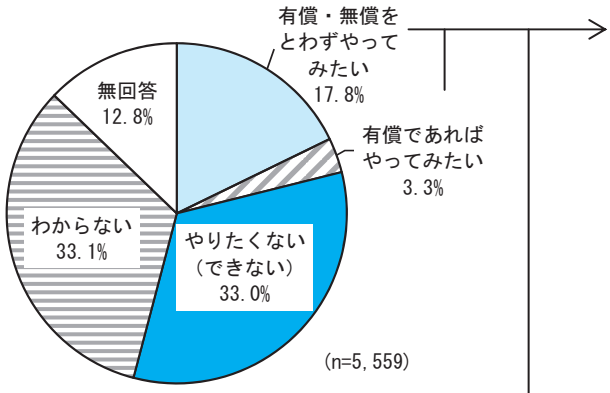
今後、ボランティアをやってみようと思いますか。

ボランティアをやってみたい方のみにお聞きします。どれくらいの頻度であれば参加できますか。（○はひとつ）

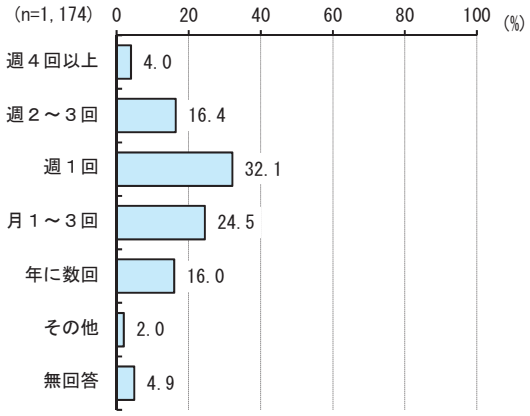
ボランティアをやってみたい方のみにお聞きします。どのような内容のボランティアであればやってみたいと思いますか。（○はいくつでも）

- ボランティア活動への参加意向について、「わからない（33.1%）」が最も多く、次いで「やりたくない（できない）（33.0%）」「有償・無償をとわずやってみたい（17.8%）」の順になっています。
- ボランティア活動への参加可能頻度は、「週１回（32.1%）」が最も多く、次いで「月１～３回（24.5%）」「週２～３回（16.4%）」の順になっています。
- 希望するボランティア内容は、「庭そうじ（草抜き）（32.8%）」が最も多く、次いで「施設への訪問（31.6%）」「買物（25.5%）」「ゴミ出し（22.6%）」の順になっています。

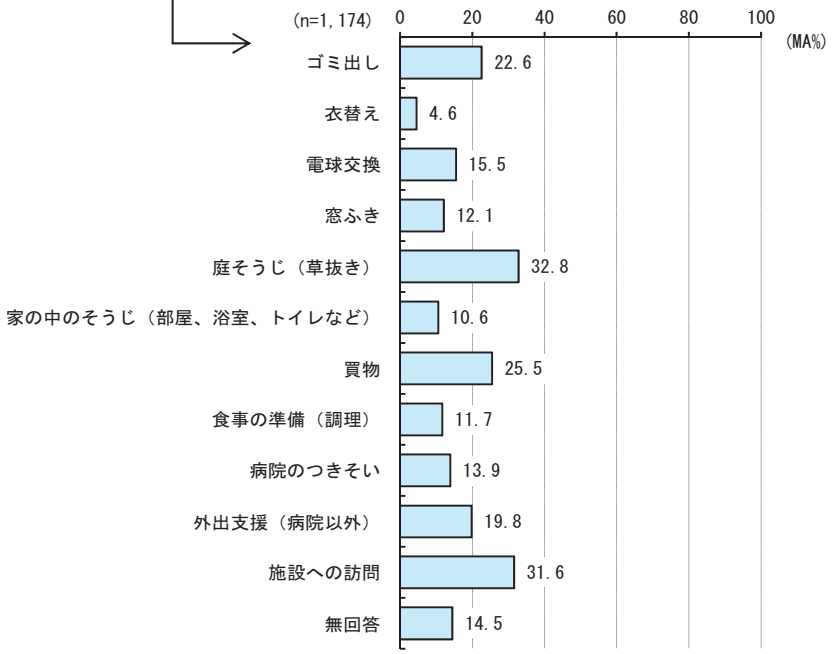
ボランティア活動への参加意向



ボランティア活動への参加可能頻度



希望するボランティア活動



単位：%

		母数(n)	ボランティア活動への参加意向					母数(n)	ボランティア活動への参加可能頻度						
			有償・無償をとわずやってみたい	有償であればやってみたい	やりたくない（できない）	わからない	無回答		週４回以上	週２～３回	週１回	月１～３回	年に数回	その他	無回答
全体		5,559	17.8	3.3	33.0	33.1	12.8	1,174	4.0	16.4	32.1	24.5	16.0	2.0	4.9
性・年齢	男性65～74歳	1,466	22.4	5.8	24.6	39.4	7.8	413	5.1	22.3	30.0	20.3	16.2	1.5	4.6
	男性75歳以上	1,039	15.4	2.5	39.4	30.0	12.7	186	5.4	19.9	26.3	24.7	17.2	1.1	5.4
	女性65～74歳	1,677	23.1	3.6	26.4	36.0	11.0	448	3.1	10.7	36.4	28.3	15.0	2.9	3.6
	女性75歳以上	1,370	8.4	0.8	45.3	25.3	20.2	126	1.6	12.7	31.7	24.6	17.5	1.6	10.3
該当状況	一般高齢者	3,250	22.5	3.9	25.1	36.3	12.2	857	4.6	16.8	32.2	24.7	14.8	2.0	4.9
	二次予防	1,687	12.0	3.0	41.1	31.8	12.1	252	2.8	17.5	31.7	22.6	17.9	2.4	5.2
	要支援１・２	491	4.9	0.2	59.3	16.9	18.7	25	4.0	8.0	16.0	36.0	28.0	－	8.0
圏域	錦城	204	15.7	2.0	35.3	35.8	11.3	36	2.8	13.9	36.1	38.9	2.8	5.6	－
	朝霧	482	18.7	2.5	36.7	29.0	13.1	102	4.9	16.7	31.4	18.6	16.7	3.9	7.8
	大蔵	457	19.5	3.3	29.5	32.6	15.1	104	4.8	22.1	24.0	27.9	13.5	－	7.7
	衣川	441	12.5	4.1	36.5	33.1	13.8	73	－	16.4	32.9	24.7	17.8	2.7	5.5
	野々池	483	17.2	3.3	34.8	31.1	13.7	99	7.1	15.2	30.3	27.3	15.2	1.0	4.0
	望海	530	15.5	3.6	34.0	34.2	12.8	101	7.9	13.9	35.6	21.8	14.9	3.0	3.0
	大久保	466	19.1	3.4	30.7	34.3	12.4	105	1.0	18.1	29.5	29.5	16.2	1.0	4.8
	大久保北	358	21.2	3.9	29.1	32.1	13.7	90	5.6	15.6	37.8	15.6	16.7	2.2	6.7
	高丘	430	20.2	2.6	30.2	36.5	10.5	98	2.0	9.2	38.8	30.6	18.4	－	1.0
	江井島	281	14.9	3.6	36.7	33.8	11.0	52	－	21.2	28.8	23.1	17.3	3.8	5.8
	魚住	425	20.0	2.6	33.9	31.8	11.8	96	5.2	19.8	25.0	24.0	14.6	3.1	8.3
	魚住東	426	19.5	4.2	32.4	32.6	11.3	101	5.0	17.8	34.7	20.8	14.9	2.0	5.0
	二見	445	14.2	3.1	32.8	36.0	13.9	77	3.9	18.2	29.9	23.4	20.8	1.3	2.6

単位：%

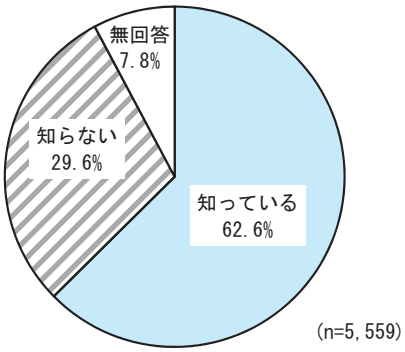
		母数(n)	希望するボランティア活動（MA）											
			ゴミ出し	衣替え	電球交換	窓ふき	庭そうじ（草抜き）	家の中のそうじ（部屋、浴室、トイレなど）	買物	食事の準備（調理）	病院のつきそい	外出支援（病院以外）	施設への訪問	無回答
全体		1,174	22.6	4.6	15.5	12.1	32.8	10.6	25.5	11.7	13.9	19.8	31.6	14.5
性・年齢	男性65～74歳	413	28.6	2.7	33.2	20.1	45.5	10.2	21.1	3.9	10.2	21.3	22.0	14.0
	男性75歳以上	186	22.0	2.7	18.8	11.8	38.2	10.8	19.9	2.2	10.8	18.3	27.4	21.5
	女性65～74歳	448	19.9	7.6	2.2	6.9	23.2	12.7	31.7	22.5	18.5	20.5	40.8	9.4
	女性75歳以上	126	13.5	3.2	－	4.8	17.5	4.8	26.2	12.7	14.3	15.1	35.7	23.8
該当状況	一般高齢者	857	22.6	5.3	17.3	13.1	34.5	11.3	25.6	11.9	13.0	20.0	30.7	13.9
	二次予防	252	24.6	3.2	11.9	9.9	29.8	9.5	27.0	10.7	18.7	21.0	34.1	14.3
	要支援１・２	25	8.0	－	－	4.0	12.0	－	12.0	16.0	8.0	8.0	36.0	32.0
圏域	錦城	36	25.0	5.6	11.1	13.9	27.8	5.6	27.8	16.7	5.6	25.0	25.0	22.2
	朝霧	102	23.5	7.8	16.7	10.8	18.6	9.8	21.6	7.8	18.6	14.7	34.3	23.5
	大蔵	104	26.9	4.8	21.2	12.5	31.7	11.5	26.9	7.7	18.3	22.1	27.9	11.5
	衣川	73	12.3	－	11.0	6.8	32.9	6.8	28.8	15.1	12.3	17.8	30.1	16.4
	野々池	99	17.2	7.1	14.1	12.1	23.2	9.1	31.3	14.1	10.1	18.2	24.2	18.2
	望海	101	30.7	1.0	13.9	9.9	30.7	9.9	27.7	11.9	12.9	17.8	37.6	13.9
	大久保	105	24.8	3.8	17.1	11.4	41.9	9.5	21.9	11.4	11.4	20.0	33.3	12.4
	大久保北	90	16.7	8.9	12.2	12.2	32.2	11.1	25.6	13.3	16.7	28.9	36.7	11.1
	高丘	98	23.5	3.1	11.2	11.2	38.8	9.2	22.4	13.3	9.2	15.3	29.6	10.2
	江井島	52	19.2	－	19.2	11.5	42.3	11.5	17.3	13.5	15.4	19.2	32.7	11.5
	魚住	96	22.9	4.2	20.8	18.8	32.3	13.5	29.2	12.5	16.7	18.8	35.4	14.6
	魚住東	101	23.8	5.9	15.8	12.9	40.6	13.9	20.8	11.9	14.9	25.7	24.8	12.9
	二見	77	26.0	6.5	16.9	14.3	37.7	14.3	31.2	7.8	16.9	18.2	36.4	11.7

⑯　成年後見制度の周知度

成年後見制度（認知症などの理由で判断能力の不十分な人の財産を、成年後見人が管理するなどの制度）を知っていますか。（○はひとつ）

・成年後見制度の周知度について、「知っている」は 62.6%となっています。

成年後見制度の周知度



単位：%

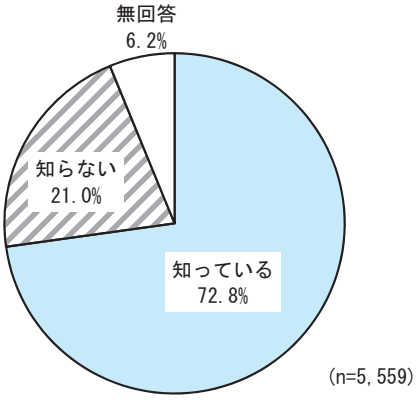
		母数(n)	成年後見制度の周知度		
			知っている	知らない	無回答
全体		5,559	62.6	29.6	7.8
性・年齢	男性65～74歳	1,466	63.4	31.6	5.0
	男性75歳以上	1,039	62.3	29.4	8.4
	女性65～74歳	1,677	68.1	25.5	6.4
	女性75歳以上	1,370	55.4	32.4	12.2
該当状況	一般高齢者	3,250	67.4	26.1	6.5
	二次予防	1,687	55.6	35.6	8.8
	要支援１・２	491	51.7	34.2	14.1
世帯構成	一人暮らし	1,027	62.5	29.0	8.5
	配偶者と二人暮らし	2,401	67.3	26.0	6.7
	配偶者以外と二人暮らし	348	58.6	31.3	10.1
	同居（三人以上）	1,460	59.3	33.9	6.8
	その他（施設入居など）	30	26.7	53.3	20.0

⑰　シルバー人材センターの周知度

シルバー人材センター（シルバー人材センターでは、高齢者に臨時的、短期的な就労の機会を提供しています）を知っていますか。（○はひとつ）

・シルバー人材センターの周知度について、「知っている」は 72.8%となっています。

シルバー人材センターの周知度

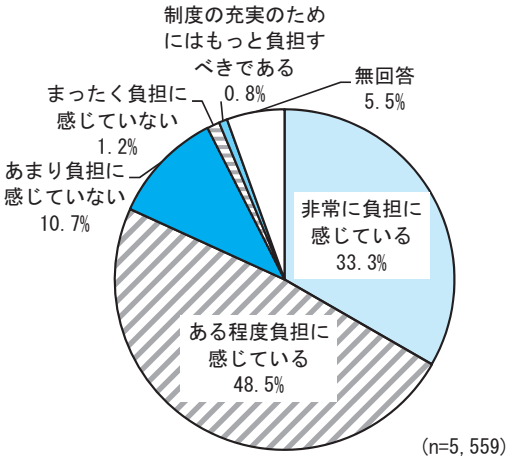


⑱　介護保険料について

現在の介護保険料について、どう感じていますか。（○はひとつ）

・介護保険料について、「非常に負担に感じている（33.3%）」「ある程度負担に感じている（48.5%）」をあわせると８割以上が“負担に感じている”と回答しています。

介護保険料について

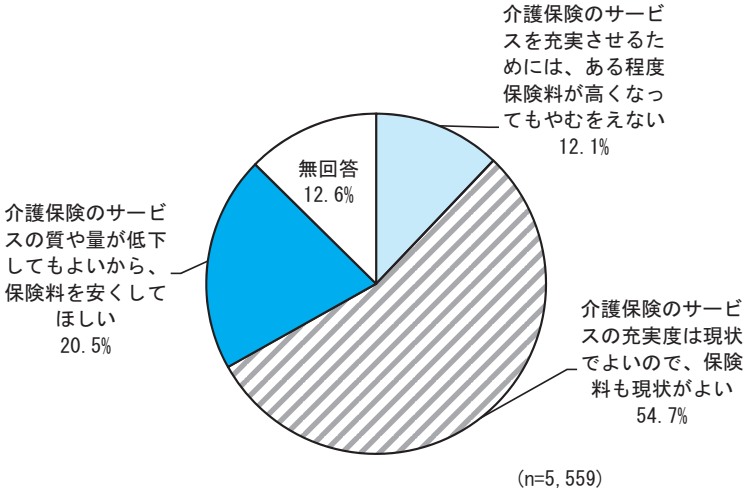


⑲　介護保険料（負担）と介護サービス（給付）の関係について

介護保険料（負担）と介護サービス（給付）の関係について、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。（○はひとつ）

・介護保険料（負担）と介護サービス（給付）の関係について、「介護保険のサービスの充実度は現状でよいので、保険料も現状がよい（54.7%）」が最も多くなっています。

介護保険料（負担）と介護サービス（給付）の関係について

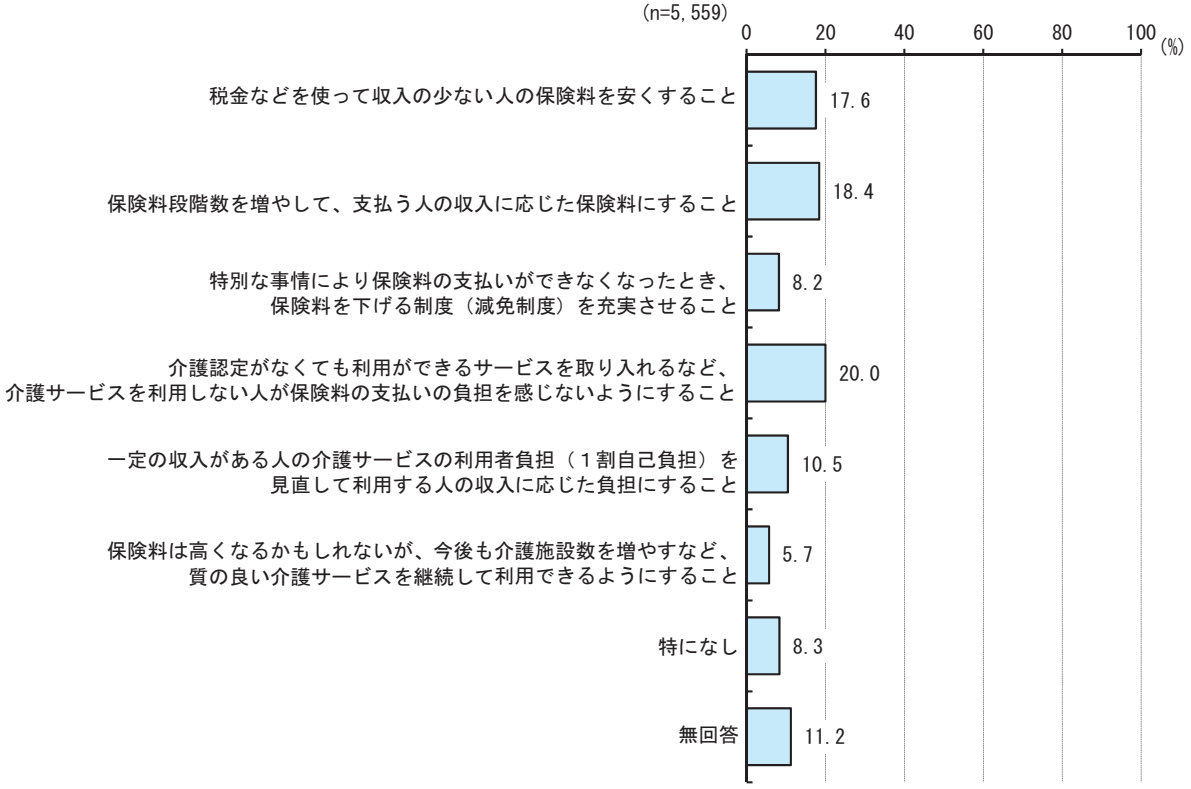


⑳　今後の介護保険財政の運営について

今後、介護保険財政の運営、介護保険料について、あなたがもっとも大切であると思うことはどれですか。（○はひとつ）

・今後の介護保険財政の運営について、「介護認定がなくても利用ができるサービスを取り入れるなど、介護サービスを利用しない人が保険料の支払いの負担を感じないようにすること（20.0%）」が最も多く、次いで「保険料段階数を増やして、支払う人の収入に応じた保険料にすること（18.4%）」「税金などを使って収入の少ない人の保険料を安くすること（17.6%）」の順になっています。

今後の介護保険財政の運営について



（２）ケアマネジャーに対する調査結果のまとめ

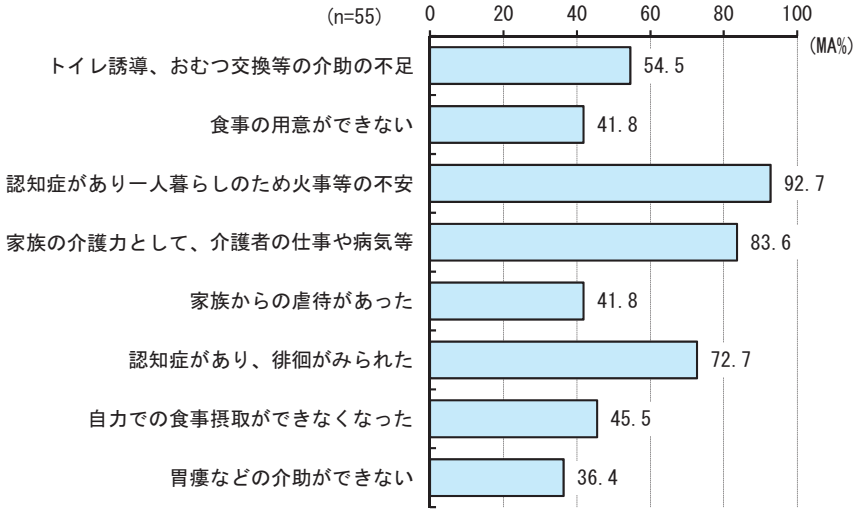
ケアマネジャー（介護支援専門員）に対する調査結果概要

区分	内容
対象者	市との懇談会に参加した居宅介護支援事業所の代表者（ケアマネジャー）55 人に対して実施
実施日	平成 26 年(2014 年)10 月 20 日・10 月 21 日
調査結果	配付数：55 件　回収数：55 件　回答率：100.0%
回答者の主な属性	ケアマネジャーの経験年数 １年以上３年未満　21.8% ３年以上５年未満　23.6% ５年以上８年未満　21.8% ８年以上　32.7% 主任ケアマネジャーの取得の有無 有（取得している）　47.3% 無（取得していない）　52.7%

①　在宅が困難な状況になる理由（○はいくつでも）

・在宅が困難な状況になる理由について、「認知症があり一人暮らしのため家事等の不安（92.7%）」が最も多く、次いで「家族の介護力として、介護者の仕事や病気等（83.6%）」、「認知症があり、徘徊がみられた（72.7%）」の順となっており、認知症に関わる理由が上位を占めています。

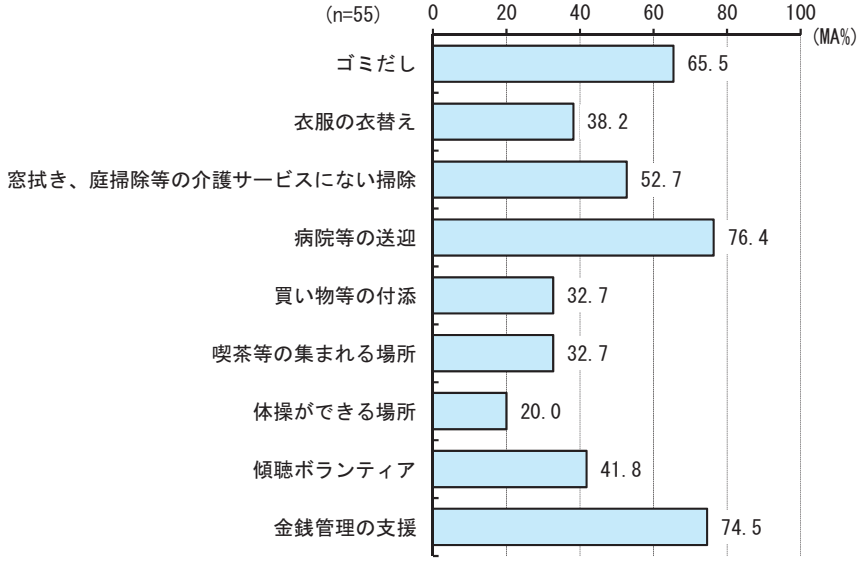
在宅が困難な状況になる理由



②　介護サービス以外に必要と思うサービス（○はいくつでも）

・介護サービス以外に必要と思うサービスについて、「病院等の送迎（76.4%）」が最も多く、次いで「金銭管理の支援（74.5%）」、「ゴミだし（65.5%）」の順になっています。

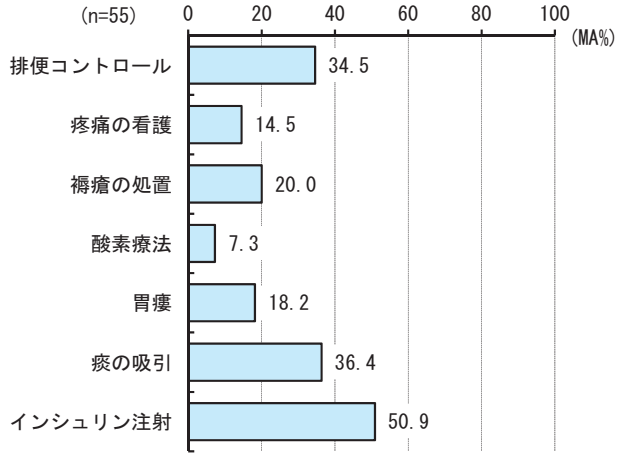
介護サービス以外に必要と思うサービス



③　ケアプラン作成時に位置づけが難しい医療的ケア（○はいくつでも）

・ケアプラン作成時に位置づけが難しい医療的ケアについて、「インシュリン注射（50.9%）」が最も多く、次いで「痰の吸引（36.4%）」、「排便コントロール（34.5%）」の順になっています。

ケアプラン作成時に位置づけが難しい医療的ケア

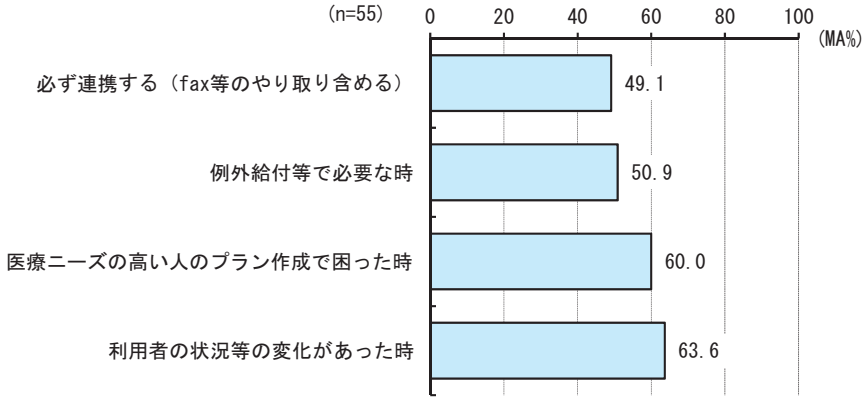


④　ケアプラン作成時の医療連携の状況（○はいくつでも）

・ケアプラン作成時の医療連携の状況について、「利用者の状況等の変化があった時（63.6%）」が最も多く、次いで「医療ニーズの高い人のプラン作成で困った時（60.0%）」、「例外給付等で必要な時（50.9%）」、「必ず連携する（fax等のやり取り含める）（49.1%）」の順になっています。

※例外給付：医学的所見により必要性が認められる軽度者への福祉用具貸与のこと。

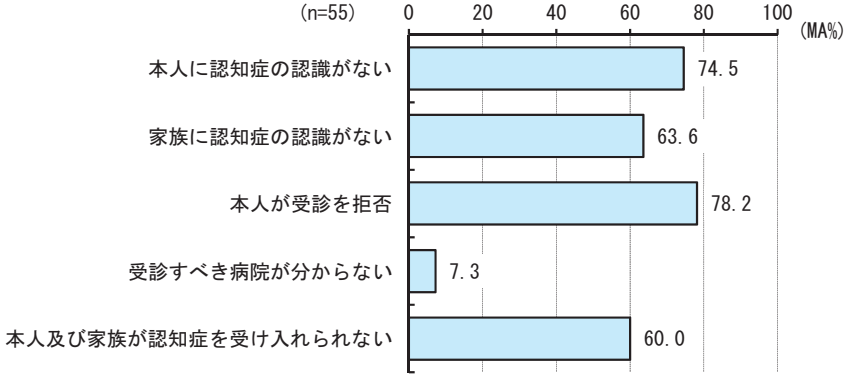
ケアプラン作成時の医療連携の状況



⑤　認知症の人の早期受診の妨げとなっている要因について（○はいくつでも）

・認知症の人の早期受診の妨げとなっている要因について、「本人が受診を拒否（78.2%）」が最も多く、次いで「本人に認知症の認識がない（74.5%）」、「家族に認知症の認識がない（63.6%）」の順になっています。
・「受診すべき病院が分からない」は１割未満となっています。

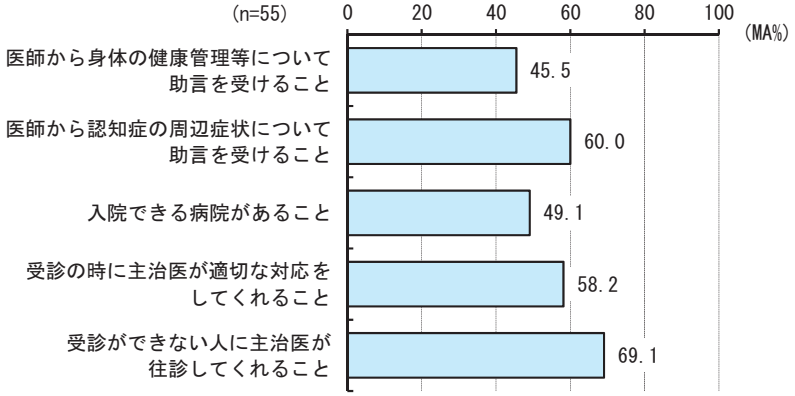
認知症の人の早期受診の妨げとなっている要因について



⑥　認知症の人の医療連携について必要なこと（○はいくつでも）

・認知症の人の医療連携について必要なことについて、「受診できない人に主治医が往診してくれること（69.1%）」が最も多く、次いで「医師から認知症について助言を受けること（60.0%）」、「受診の時に主治医が適切な対応をしてくれること（58.2%）」の順になっています。

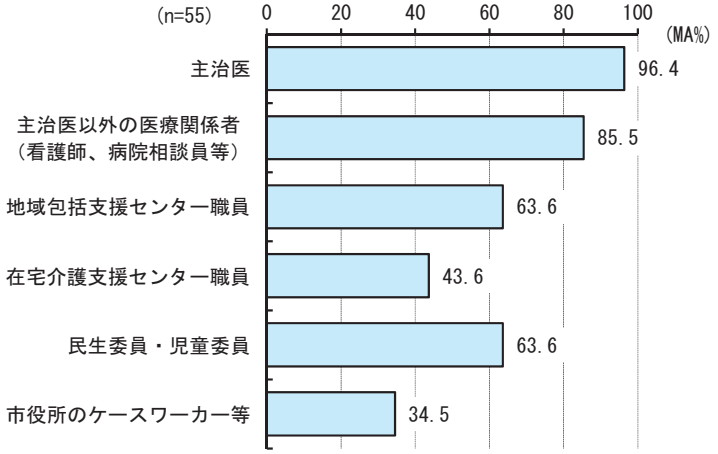
認知症の人の医療連携について必要なこと



⑦　ケアマネジメントを行う際に、連携をとったことがある人について（○はいくつでも）

・ケアマネジメントを行う際に、連携をとったことがある人について、「主治医（96.4%）」が最も多く、次いで「主治医以外の医療関係者（看護師、病院相談員等）（85.5%）」、「地域包括支援センター職員（63.6%）」「民生委員・児童委員（63.6%）」の順となっています。

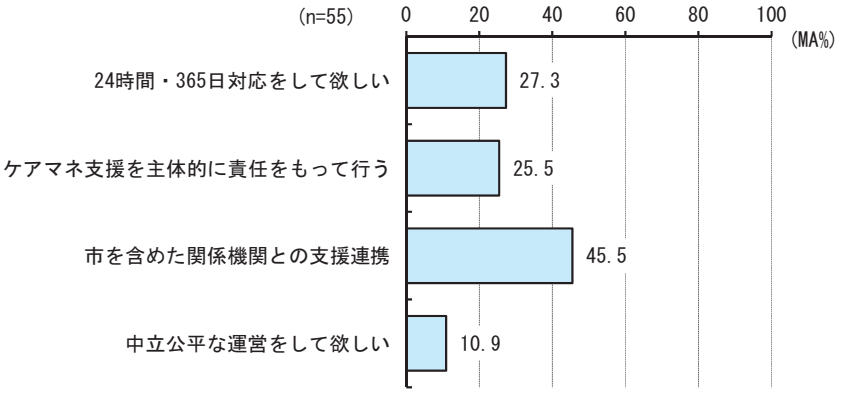
ケアマネジメントを行う際に、連携をとったことがある人について



⑧　地域包括支援センターの体制強化について（○はいくつでも）

・地域包括支援センターの体制強化について、「市を含めた関係機関との支援連携（45.5%）」が最も多く、次いで「24時間・365日対応して欲しい（27.3%）」、「ケアマネ支援を主体的に責任をもって行う（25.5%）」、「中立公平な運営をして欲しい（10.9%）」の順となっています。

地域包括支援センターの体制強化について



（３）明石市地域包括支援センター在り方懇話会のまとめ

地域包括支援センターとそのブランチである在宅介護支援センターの職員とにおいて、地域包括ケアの取組みについて意見交換を行い、効率的・効果的な内容を検討しました。

①　地域のニーズ

地域で要支援者が暮らし続けるためには、買い物や通院、食事などの支援を、自治会やボランティアなどの地域で助け合うことにより、地域での自然な見守りにも繋がるとの意見が出ております。また、地域にある小中学校等と連携し、世代を超えて地域活動に一緒に取り組むことが安心して暮らせる地域づくりに繋がると考えています。

②　専門職と地域のつながりについて

地域のニーズを踏まえて、専門職は、地域と繋がることが最も重要と捉えています。今後、より積極的に、地域に出かけて住民と関わり、その中で住民との信頼関係を構築することが大切という意見が出ています。

テーマ	主な意見
地域のニーズ	**○地域の協力、ボランティアなど** ・移動スーパー（スーパーが地区に出向いてくれる）、商店街の協力 ・地域の人の多様なサポート（買い物・通院の送迎、食事の提供、ペットの預かりなど）⇒自治会ごとにボランティアグループを形成 ・認知症の人などへの傾聴ボランティア ・元気な高齢者による地域活動の参画（高齢者が子どもの世話をするなど） ・地域と協働での介護予防教室（世代間交流の場や居場所として活用） ・居場所として、集会所、施設の開放、オープンスクール、空き家などを活用
専門職と地域のつながりについて	**○地域に身近な相談窓口として望ましい在り方** ・土日祝、正月、夜間帯などについて、分担で開所し、24 時間相談を受けられる体制への検討 ・介護保険サービスの利用にかかわらず、困った時にすぐに訪問して相談ができる体制の確保 ・相談対応は、できるだけ同じ職員が行うような体制の検討（相談対応者が何度も変わることにより、相談対応の継続性に欠けるなど相談者の不利益につながる） **○地域で身近な存在である専門職の在り方（心構え）** ・相談対応は、即日対応するよう努める ・地域を知るために、地域との協働に努める **○地域包括ケアの情報提供** ・市民に地域包括ケアシステムの説明 **○今後、必要な取組み** ・高齢者相談窓口である地域包括支援センター等は、地域の拠点となり、地域の人と一緒に、地域の活動として見守りを推進 ・地域の人と一緒に勉強会を開催（認知症サポーター養成など） ・認知症の家族の人も参加できるような居場所づくり

５．今後の施策推進に向けた課題

（１）地域包括ケアシステムの整備

地域包括ケアシステムについては、国より、高齢者の生活を地域で支えるために、日常生活圏域において、医療・介護・介護予防・生活支援・住まいの各種サービスが切れ目なく一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が重要とされています。

市においては、要援護者システムが地域ケア会議として機能しているため、要援護者システムを評価し、それを活かす取組みが市の地域包括ケアシステムの構築に繋がると考えます。要援護者システムの現状として、専門機関間における連携は図られていますが、新たな介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」という。）に向けての住民組織やＮＰＯなどとの連携については、今後の取組みとして、重点的に働きかけていく必要があります。

また、介護給付等対象サービスの充実を図るとともに、医療・介護連携の推進、認知症高齢者への支援や生活支援サービスの充実、高齢者の住まいの確保など地域包括ケアシステムの構築に向けた方策を中長期的な視点で段階的に取り組む必要があります。

（２）認知症高齢者への支援の充実

国は平成24年(2012年) ９月に「認知症施策推進５か年計画」(オレンジプラン) を公表し、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指し、これまでの「事後的な対応」のケアの流れから、危機の発生を防ぐ「早期・事前的な対応」を基本的な考え方として、市町村において、標準的な認知症ケアパス（状態に応じた適切なサービス提供の流れ）の作成をはじめ、各種施策を推進することとしています。

市においては、高齢者の 11 人に１人は認知症の傾向がみられ、今後も認知症高齢者の増加が予測されており、認知症高齢者やその家族が、安心して暮らせる地域づくりを推進するためには、認知症に対する正しい知識や理解の普及と支援体制の構築が重要となっています。また、それらの環境整備を行いつつ、医療との連携により、早期発見・早期対応などの施策について円滑に実施していく必要があります。

（３）生活支援体制及び見守り体制の構築

新たな地域支援事業の開始に伴い、様々な担い手による多様なサービスを展開する観点から、円滑な実施に向けたサービス提供体制の構築が必要となります。

日常生活に関するアンケート調査結果をみると、生活支援の担い手として期待されているボランティアへの参加意向は回答者の約２割で、その多くは有償、無償に関係なくやってみたいと回答しています。また、支援を望む側と支援する側の希望するボランティア内容に、違いがみられます。

地域の自主的な活動やボランティアの確保に努めるとともに、高齢者の多様化するニーズを把握し、様々な事業主体からなる支援の担い手と円滑なマッチングを行い、必要な支援を届けることが課題となっています。

また、高齢の単身者の世帯、夫婦のみの世帯が増加し、人と人とのつながりの希薄化が社会問題となる中、いわゆる孤立死を防ぐためには地域の見守り体制の拡充や専門職との連携・協力体制づくりに努める必要があります。

市においても、生活支援体制や見守り体制の構築に向けて、ネットワークの構築や住民主体の活動を推進するための仕組みづくりに努める必要があります。

（４）権利擁護の取組みの充実

ひとり暮らしや認知症高齢者が増加する中、消費者被害や高齢者虐待など、高齢者の権利や財産が侵害される件数が増加しています。特に判断能力が十分ではない高齢者は、権利侵害にあう可能性が高くなり、住み慣れた地域で安全に安心して暮らすためには、権利侵害の予防や対応するための取組みの充実が求められています。また、高齢者自身だけではなく、養護者である家族が問題を抱えるなどの世帯に対しては、障害者等も含めトータルでサポートする横断的な連携や支援の枠組みを整備する必要があります。

（５）災害時要援護者支援の推進

近年、急速な高齢化の進展やひとり暮らし世帯の増加などに伴い、災害時に自力での避難が困難となる災害時要援護者が増えています。災害による犠牲者を最小限に抑えるためには、個人情報に配慮しつつ災害時要援護者の情報を共有し、地域で迅速かつ的確に支援するための準備を、平常時から講じておくことが重要です。

市においても、災害時要援護者台帳への登録や、さらに自治会・町内会・自主防災組織への情報提供を進めるなど、引き続き地域と協働して災害時要援護者支援の取組みを進める必要があります。

（６）介護保険サービスの充実

日常生活に関するアンケート調査結果をみると、介護が必要になった場合、在宅介護サービスを使いながら自宅で暮らしたいとの回答が６割以上みられるなど、高齢者の在宅志向は高いことから、地域密着型サービスを含めた在宅サービスの充実に努める必要があります。また、軽中度の要介護認定者であっても家族による介護が困難などの施設入所の必要性が高い待機者の解消も課題となっています。

一方、今後、介護保険料の上昇が見込まれており、介護保険制度が持続可能な制度となるためにも適正な利用を促進することが不可欠となります。

超高齢社会が進展する中で、被保険者の動向、在宅・施設サービスの充実の方向性と介護保険料負担のバランスなどに配慮しつつ、介護ニーズが急増する平成37年（2025年）度を見据えて、段階的にサービスの基盤整備を進めていく必要があります。

（７）元気高齢者の活躍できる場の充実

社会の様々な分野の第一線で活躍してきた団塊の世代が高齢者となり、これまでの経験を活かし、今後の超高齢社会を先導する役割が期待されています。

従来の高齢者に対する固定観念にとらわれず、高齢者を地域活動の担い手として捉え、高齢者が活躍できる場を充実していくことが、地域における元気高齢者を増やし、人々の新たなつながりを構築していく上で重要となっています。

日常生活におけるアンケート調査結果をみると、自治会・町内会、高年クラブへの参加割合は低く、参加者の高齢化などもみられます。また、見守りや介護が必要な高齢者に対する支援活動への参加割合も低率に留まっています。

今後、元気高齢者が地域の中で活躍し、充実した生活を送るための取組みや雇用の創出を支援していく必要があります。

（８）介護予防と健康づくりの推進

平均寿命が延伸する中で、生活の質を保ち活力ある高年期を送るためには、若いうちからの健康づくりが重要となります。

日常生活におけるアンケート調査結果をみると、一般高齢者の８割以上が健康と回答していますが、要支援１・２では不健康との回答が過半数を占めるなど、生活機能の低下と健康観には密接な関係があります。また、介護予防教室への参加意識は低く、二次予防事業対象者に対する機能回復訓練を中心とした実施内容について、総合事業の趣旨を踏まえて見直す必要があります。

地域特性やニーズを踏まえたプログラムを検討し、従来の事業の枠組みにとらわれず、日常生活における生きがいづくりを通じて、生活機能の維持、向上、健康づくりにつながるよう、新たな視点に立った取組みを進めていく必要があります。

（９）地域力の向上

住民の生活様式や考え方の多様化、高齢化の進展などにより、地域コミュニティの希薄化が問題となる中で、まちづくり組織、地区社会福祉協議会、民生児童委員、ボランティアなど、地域福祉の中心的な担い手同士の連携をさらに高めながら、地域力の向上にむけた取組みを進める必要があります。